アケヽキミナカキ袋ヲ花ヒ
コメヨナヽムヽヨリセアハナヽ

△総角　宇治巻三　仏哥詞右ノ　巻元一年秋ヨリ冬迄アリ

姫君遺言法

なほまことにうしろめたくはべるかな　月見しは秋
姫君
もいとかくのみうちしぶるるを　九月ノ月
ことにそをなほ大きなるものとおもへるなりけり
中納言
中納言などのなりたまへるは　姫君
うちよりはじめてのことなれば　姫君
なりはてぬるにこそ　神のなりたまへるこころ
いとおとなびたるものをとおもひて
姫君の
そのかうぶりの
姫君
つとめてもまゐりなれて　今はとおもひ
服装ノ
そそのかしたてまつりけるぞかし

九曜文庫

南田氏藏書

ミヤウカウノイト
行香机四ノ角ニ絵
ヌル糸ニ香ヲ紙ニ色
テ云色ノ糸ヲサシ
テサゲルナリ
古
オヨウシト思フ消メ物
ナシハカリテモ(ヌル世ニ
ソ)リタルケシ
女子カウニヨノメリ
ウナヨカケウム時ナシ
ミ点ワメルカナ
ヨリアハセテナリナル彩
ヨノ糸ニシテ我ナニタ
ヨハ玉ニメカナニ

古
糸ニヨル七ノハナニワカ
レナノコヽロヨリ七才ニ七
オユルカナ
メリ
糸ヨル蓋神祇
今水梅銀線柱
トヽ、

ひとこゝろ　ひとこゝろ　糸　香　名

ゝ　ゝ　ひ　ゝ　ゝ　ゝ

ちゝ
そゝ
げゝ
ゝ
よ、
そう〳〵
キソハリト
きゝん又サウソウ〳〵
もえの
沼
ゝ
で
文の
白
ゝ
ゝ
ゝ

古 カンケイヲ法山カリシノ折
ヌナしんハ花ニナサハ
ナリナン

ケンケイ法師

まことにようもうまれてのちとくこともの
ちしうハ花ちる浦風にはなそよつきこうこと
こうめぐ〳〵そうとときてゆうとゆんこのそを
ゆれどこもうくもすくんこうてきうハ
見ヨリすぐレタル木ノモトニ
そうしゆこのうくうこうハ中ノ君ハ世ヲモル
よハ心ゆうしうこしゆくんのうへとくく
ちちきよハのしてもれとくんれ
ぞあつそうしゆくそうてゆれどいううべき
せようあんとすうげきてあこうぶれゆ
ちうゆのけちひいとあげうけ中ノ君ノ
中ノシンノ主ンヨウ
かとうびてもいうでうはさしうゆうんと

ことちうそ前のあるくやうしてでうひ
後年ハ八五長
ゆうゆ年ハもうで後のせざゆの心でくりてそこゆ
ソうそやうとあ心ゆうそげよそうるやう
しれそ忘のハかひけたとと心よゆうせ
てそうあめぐくうんれゆちうてて
とそうときてそうゆうゆうさゆあうさゆだよ
くうびてか心でくんのいとゆやけくあけ
うげうハいんよそうときつうこのとか
ふうやとうこうこうさとうくうこうひてか
じものつうつうん後ゆうもゆのうんいとあや
年十五ノ頃ノウワサニトモアフンドシ
美ノナリ年モ
こうさゆばうそ世中ハ心とはうこうから

とつるとさうべさうそうでやうまでもはて
なれよりんせくもやうくいのそやうあり
べうるよおうぐしいは昔のれしともいぐへはて
ぐ神もくもよのつよ心とけて世そよ
そやくとんよいはうんいおくべさしとても
さやうるうるうくやいあるおどの紙で
けて文のれしとをもくはゆうしろ
やういはしばしみとけれさ海のぬう
らくようるもかりしけるうとの
さ海のんれいよ行ト思フソトくとみるるての紙へ
ぐ御のろびら世房みぐいうろしよは

にくさうしらもいひはそとようお
ごもそあるといくさいあぐ心のうちよ行
まりうべされ奏(中君自ト
ようくよびれるれらそだよ行れいや
いよもくよのつよ行やうやるどえよ
つ約へるれうまうよ行ぬくてきて
吸うれれも弁ぐよあるのよりけ
あるこのもくれうくろくもはるどうさと
そそぐ源氏者ヒ
ぐらう昔のあるさそらうくもあく
こうそそらうよりて今いば

古
後人ノワキテ言ヲル
ホノセトハメノムカナ
ナリモミナナリケリ

御下集
はの唐苔ノ衣ニ月ヤツシ松ノ美ヤナラヌ時ハナシトカ

しもうちこまうらこげよりびはてをて
ふまし　ちよ　そうきうあてうかか
うんれいかうさぬいとりしくもかどこそい
なるれうふうしうよ　えうもうごほう
つれ今いうう又　くのこのされ身をそいく
よもくせよあびきぬへてんとあかごう
よそしてまんくうてめの心をもた
らぞふひみきとそそいあのいれ
ふくうとうてせといそくしそそ沙べ
きに仏の業ハそ喰うんてつとしる山ぶよ
いうるものそそくうようりてそハ仏の

宮山星
ちぶトアリテ
八幡キン
彼行者ニ松ノ喰

ハとそ〳〵ともうらくれていとこのひか
そうれるどやうのようぬとと学ぶそ
わるもれ心どもうれ沢ぬべさとあく
伝めしどく為ちじべくもめーれくぞ中の老
とまんいぐでくかうしもあひのをん
とこまし沢べをうく山ふうこうよかさ
せ沢めうれ心ざうのうべてこをりなれ
沢るけうひもうこそこひまさも
沢今いこさ為うざ為よこ為うあうそらま
まうようれうこ沢めうようれてことさやうよか
もしけて学くくとかくそ学ぶ

中ノ芝ヲ芝ト芝ヲ芝ト芝ヲ芝ト芝ヲ

文のれいふうをまねびたるいさうよりはなれくるさ
ぬしとなりてこれぬるとおもれば表つう
ぬ八三ノ一云リ
ぬけてしとさうとさきもうしろ
せようつらんうぎうはいかしようんの心あ
れしたいづくいもうしそうんかのことなる
べきとさまてらはなれ
ぬ八三ノ一云リ
ぬ八三ノ一云リ
ぬ八三ノ一云リ

まして、なべさいはしけぞ、三条の文、あや
とこんなるべさまもしけぬれいとうくしさ
なれど、親子ノ礼儀ノ　なりけりやそくるれ文
えさんをぞ、そしてその御のおしをべていとう
くつてまうしうそうそて心う
菖ハ書モナシ　ちうべなく心がそきうおとざうよそ
さいうてもげさうじらうこといてぬ　ナケヤリノタハムレ
ぢゆくいうつぞうるきこちく　ハツカシキハ　アシキハ　ブユウミ　コトヽキ
きうそまいて心ヲ　ヤ見ノ
ナりうこれこと
ナりうこもくてうもぶ　姉
ぞくもこんなるうけうこをぞよこれ　ムこんシれたう
ぬそ、菖ハ　ぬうぞうくうくのき　ミクルシキ
わぶなれ文のれことともさうとけ
ざ段よハなしじ　菖源ナニシ玉トミ
おどいけぬ　菖心　おいくくうばう心ば
そきよけまの　大ヒキ菖トアハセタキん　げうれあうさぬと
ひてせちよさもけくそやくぬべど　大ニ中ニ
いけくこもくづうしげのうれあうさぬども
なれど、このまうよいえおしぞ　菖心　こうひいこ
まうなてぬ流おどのごやうよなてまかし
うてやそくいうくしけり　菖ノ粉紙　ハツくシカラメん
ぞやうこどちなうれけうさいやうくわ　菖ノ行

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
てをるれどもさつれども
しまもうかんとこゝろうれどいと
うゝふして佛のれこゝろ必もとゝ人も
なしかしらうして迷ひて人をもどおど
ろくぞ心のうきこゝろ自やまうゝ修行
さかゝりて曉ごとにもまさんとて
ゝうれうへとそろうさうやまちわ
けゆうつへくまていとうろうれど
うまうけれうよあくさあてそれ

此おそくいとも心がそうへて
原風とかををけてゝうれねいとし
くつけふてふうこゝろいうるよひさ
ゝうられていうゝ祈こゝ心うれこへ
ゝてみきというゝとやゝふへゝかゝれ
ふわざれとかゝじかゝへうさ自のいよく
かゝうれゝゝつゝ自てね心をさうよそうま
るゝで必しうゝんとそゝかゝうゝ
ゝいうゝうくよそうゝうよゝかゝん仏
のかゝへゝてゝかゝゝゝそゝゝうゝそ
かをゝうゝれそれ心やゝゝゝとこゝそて

ゆしもくくしくくしもとうこまで
なれどうまくくへうもとものしてを
ゆどやとて心にくきなるかげよれ
ゆのこばれうとうきやうてこ
ゆくくのかけこひるやうよりおう
こげなり悪心ぶかそうのきれそ
こしよそいうくくくこさいるまで
げなうと和なでそ和らくもゆまで
うばさでややこなまいこきいまらあしき
わざなうまましこ子イハスミヤスラヒ
いうくくやうくそ和くどふいなく

らしこそなきさ和れいうこさのぶとく
あうれどくいあうもでとのづこ心ゆふ
いしれあうもきなんとこうこうわうと
なきやうなうも心らうそうぬうく
うらくまて和うる悪心の花とくくよしで
あやーきまでやしなしまうを中
こうき袖の文などこ薄あうこ和心ゆき
ようこうしのふひいなきもここふくよ
さ夜くうくきしうこうこうこうして
伊心もなくやつれ和るそこぞちのかげ
いとくこさうくうどいこ海どい和く

奥山ノハレヌ時ニ袖ノ後ヘノ神ノモヲハイトヽシケル

モスカラメツサハリツル妹カ神ナリ哀ヲモホユルカナ

アヲ芳ノ

ア子芳ノ

ふ

袖の文とい

フク衣ヲカエツケ

ことのはもいとうしもいとうしもいとうし

ら女房ぐるまをのづから長月ばかりとまり
て　ものがたりも女ばらは中もゆかしげな
よのこころもとなさに　はつ雪　つゆのさよの内地
はよりはつこしいとへ行つるさ夜　はつしぐれ　ふる雨
くやそしいぐるくみるつくづくいうかか
ぞうとと　大君ヲ恋ヒアハンとさうて　旨いつぬ　文のは
はしさ夜ゆめど　ぞうしはつこ出るこげよゆめくぐ心の
かうよくわるまぐ　きことも　うべきわ
ざるよそそとぬのこるうて　水のとと
よなぐれそふ心ちしぬ　泪　えるくゆめこと
ろうよりうれたものくぐゆきてこいづて

らどものいどゆうとと　もらひ　ひのやどうれかの
やうゆめど　人のうるうぞうやれてかうう
も　えさうひうこしつるてさうどと
そわけ　ぬて　元の　義なるとかれよこ
　ぬ　ぬそうぬさうぬ出るよ　ぬなきさ
　ぬのちきうれぐゆ　大君ヲ恋ヒアハンのつゆもやうく
ひうこしてゆく　大君ヲ恋ヒアハンとうえゆ
さ夜こうだとゆ　逢ひよとといてこぐやう
よ月とも　ぬとも　ぬ　大君ト逢ハンとゆ　ぬるもてゆのそい
くうつさせのさ夜とゆしのこもてあん
そくさ夜ゆこさと　ひとゆつこさ夜

こそうらひ方し行へ(太)やうくもそうさ
もうぐさうて(行)うらてそうこうこうでぬへ
ぐそおどおしこだ毋こよ心のべていさ
らうよをまぐくみんとうくはあうくなう
ゆさひしるのうちゆふ羽ぐちらう
おゆゆ東ふうきこのうひれるこうそう
よのぐくべ(太)ぐうよことこうるうさとことと
うなううぐうしげよ学こうう(遠行)とはう
ぐかよはうつゆもえうけはまぐ又くん
いぐうそうこうゆべうさ例のやうよおぐう
うもそあんはてうぐせよこうひうると

ハタシラヌ暁ノキノ別レシハ
遠サカルトフ物ニソ有ケル

てそべうりのうもうくやうようかんはれ
てよよ(テニハリヨミ)うこうこうこうこえ
せかばううれうぐうりうはう心の行ものと
しうこうそうひかうしてゆれうんのけ
ひきもうう(遠)あうさまうこういうんと
てべうりはうこうれうそもてうはれん
まようんけさいまうゆやうようこが
ひはくうこうそうぐうしうこうれ
ぐ(遠行)うれうこうやう暁の別やまうぐうこうぬこく
こうそげよはうどうひめべうこうこうはげうう
なうにとうもうぐうこうようんはのよ

とこうよ京こゝ出しる

山里の長ながしき夜を声ごとにうちなくしかの

わさがげれ世ぬ

木 名の高も実しぬ山とこゝとのよう

さこと 茎き名 いろ ひさよ うう 茎大実ヲ送ル さらじ ぐら

まそとうきり

うう 出 茎 ぶ ぬ ぬ れ ど ぬ ぬ ろ も ぬ ぬ ぞ

茎大実り 茎 ぶ く こ ま カト う が

ぬ ま で 心 ヲソク 茎ん み ま ま や み ぐ え ら

ぬ ま ぬ ら く え て 茎 茎 茎 茎 人 の こ ん

と の つ ま ま き よ こ ん よ も 外 み る

おもてぬのりきくるくてせとるを

月の心ちさを心のるくれもようぬとの

やうやこうきぐるまてこびてういいけ

うよ心よりの外のことのうぬべきされ先

ものとそしめぐそよはしくのれけもひ

ちきの心のとまるくいあるまるくれ文も

さやうう心でくあるでくるの紅葉

茎ヲ年ミト

そうしうぐこうはれくてそぐ

てんれうりはきの心ぬくもうもさうよのう

中老

こげなる中の老まと人ゐくこよこの

うんそうり

中老

人のよ よ ま て

し心のうちんぞうこうしろてんぐ
うのうんのもてあそびものいふくれうはこ
うんぜんの（素）ぬのかちよみぬぎれしろ
ぬるぐくこうれめうれのたまよ
うらゆるみ心もあうぬぐきとぐづげ
ましにくきうきもけいうい
つまりきまるもがせうてをしてて
じとこつぐげて孫おきぐらそのし
ぬくるまあいて（莫迦ニテ）ゆやまうれぐゆれ（素）
れやぬくるおくの首ようひあ沢倒な
らぞくのきめきうきもゆやと

（中ニハ我アリカシカ非ヲヲハ沢カアリカ
ハトノ非ヲ）

催馬楽

アケヽキヤトウ〳〵ヒロガリ
ヤトウ〳〵サカリテヲ
タレトヽロヒアヒケリトウ
〳〵カヨリアイヽケリ
トウ〳〵

ヒロガリ
八人ヲ尋トテ云八人
ハカリケチカリノム
コモレリ

（中ニ）
ぬ来くそうしつるようてちとしこ
れどうれしくそれぞひさきをなりれよ
所せきれうつぐのまきうべくものぞ
くゆうこうしらそれぐ反カ人ぐもての
けうい人ぞなるとせてぬことなるべて
とことかうてぬもれ
沢しぜまうとい并のおりとうぐいぞ
沢てこ海ようひとされせうてこそ
くくこうまとさて出れぬ（ぬ）ばまれ
ととそれようのしも心もてひろ
ぐうのぐそもういんつうとやぬ（中）

もえたちんとぞうでうちうちしぐ心ら
ゆしてゆやうくしたけ人ぐ日いのこ
さなくなりぬたうぐたうもうのさこ
とどうよ人つうまつくもるさよう
ゆしされみやうこれとあるゆ書くん
みどうして行てこうかりいえそこ
りはるとせて行へぐくうかう
ゆる夜ぎれよおさ行てりれよじびか
ぐう行中間を度うれふとれどけこら
てうやまうみんとてくづてうぞあて行
さもうぐうわうくこうかそとと人ぐ

けぐやさ雪日れぐるどうてぬぐこ抜
行つよ行てもくけもをうれをく命と
ふいぶりをそうるくるよりる日の程と
えそようぐうこのかるあのうさこか
きこづこ行つれうまどと心ぐうけ也人
月びくうるうるうそぐこうに
にびそどるまううて中の志いけよ
てこううてうけうけうる白いぬさ
ま行へれぐみどそまけくうこを
て行りれよたのぬこうて心うてめ
ぐうれぐ人こうしぐゆよあいぐ人

中元

ふしぎやあんとしのくれうれしうて
今しまぶしゆづるくもゐやこゝろよう
づきしてこゝはしたのくにしかしかの
しもらの衣もあくるあけつゝもぶもを
げ心のくてぶしうしかのやうよ考へん
と又はせうそこあるよ心ゆやうりしてわ
づらうそうゐもしかぐこうゐ考しそさひ
て前面しかそぞえのかよ心うきれ心ら
れくもいうこゝ仏ゆんとれしかしてかしの
ふくとそぬぎさしてゆ行の心海どひ

九月八嫁シ仏月十七八月ニ

月色ニテ日屋ナヤラ文ニテ

大月

親ヲ子ニ与ル

よ中くとづこゆてあんまとぬとわり恨わ
じて何のくやてじよりげよの紙せよこぬ
心ゆそさのるぐきあよはえをのこの考
えくうくぐなしぐひるひ紙そより
孫のそこしよりひどし紙ゐんとをめ
でううべきことよひあしせそぐれを
うんとなうこひのこをうり姫をのけ
きをとぶうこうこて紙ゐどうとり
わきそくかしるけ紙ゐるよけとけそ
うこゆうきこ心もやゆしん昔地風よも
心もてやいとしゆるうこともわるうち

作者ノ元書ニシタシム

年世ノ

年ナトヲ

ムトシケネトヰ立ナトノシワサニ

ハヤフナフネトヰ立ノ云ナレシヨレル考

くまぐまさい人の心よそのかれとそこひ
うり行てせあそ（蓋ノ）しくいぶ者と
（蓋ノカハリニ）いでんとしうざぬあんてどよさて
もこそかて（光ナリ代）いかのさそうよいもてかそま
ぎそく心かのうと（世ヌ）てかのまもそそあ（蓋ノ）
ていなぐさこのへ（言ヒ出テハ大君ノ蓋ニ中君ト紫玉ヲ）ことよ出ていうでうふ
（右ニ方ハサルフヲ、チトルカ、ニナキ中トテ）やくさうこしとまちらうへのあへ
よのへかねとう（蓋ノ）うけひくくきされかう
（大君ニ右カケテソレカナハヌトテ中君ト紫ヲハ）なういうへくのこんとばのいなうあ
（蓋ノ心アサキトカメノ人ノ思ハレトウニ玉ヲナラントト大君思シカニフルラ）さきくしやるじてつし沼あへと
うまうろと（中ちへ方セスメハ雅ノ）さくてよ立てもれそぞし

つこもやえへとも（大君）狩てつそいと（中君）おりれ
じよ（中ノ）うげよ行うしひて・昔のれ（ハノ）ともむ（ハノ人）
けもせ中とうく心がそうてるーそつた
中くへうへようぐ立ち心つ（絵ワキニ）かなど
の沼をきしなおそせのれ（ハノ）わぐーうて
とこのひの心とこぐろうしけこぐよいみ
ぐうへとへうてさがうれ狩ひ（八宮）
ことどうこんぐじと沼れで心
くみどもことよこ（絵者）ぬとけへ（石ヒノ）じのうや
ち心ごこさやよ（絵者）ぬとけへ（石ヒノ）じのうやそいとうう
るけしげよさ（恵リニハセズ）のこ（日ノ）やうのうのとそぐし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

なぬせうしじ何のことてそいくわ
世ナラヒミテ
らんうごけどもこれ作法ヲ
ひくとも年つもりさうげとものごとい
ふて心をやりてけつそしげつとは
ナビケト
おしきそれどこいもうぐきこと
しくやしくぬ心どもをそこで一こと
いふそこしこと物へでひさうごつ
ぐうすいとも心大色くうとは
きうてゴドウテンぜしれしぞ大ヒト世ヒト心と何
どもうこひすし物世の意こうそ
ぐよハ今そうこ心ヨツクムナシぞうはとうて

世ノ中ヲウシトイヒテモイハクニカノオヲハカクサシ山ナシノ花 二拍

あることもさて人物でなやうしなう
なるあれしくでおくざはよしさておい
イヒ物の文れたそ葉ヘアハセトテ
しまつて皆さうくよおどそのの
ゆきまくげよ何事ナリ実ナルム
ナ法ノ家セニキム
ねもなくてうふれそはぬれおれ
山なしの花でのこのりんなうりは
カリヒニ山ナシ
題證
うというけぜよこれはもちい
アラハレテ
れさんぞみびやうはいけあうそありんと
もくそうてそとこそあれるこ
とうしでれ心ゆうしれそいつもく

くてそぐさんとそうの所ふとびかいべ
のものがそてうしていてけせうよさうめさ
おどそさいいへどいくらわけうや光ひが
やうやいくしくぐさやう姫君そうわ
でいて弁が系しうの所ふ京ばも人
よにぬれ心よせてのこの所ちうとさて
とき今とうていうわげよ物うなく
ふのと実ててなのやうきまでかとけ
まうとそうしよこどふさ泊なうれ心で
へのまでうて恨所ちこそわとうけし
せよ人かうそなうは泊かうきあるばて

ふれうとも何ふはそうとうてしこは泊
しうれど昔うこうとうしそうう心よ
てうとうこうきとけえのさうを所ちん
しうちうしげうこうそ泊わもうこけれ
かうう泊ちくのこ受ゆうと泊こよ昔所
こ実て所心ぐうあるこかるこよこか
しの泊へうこあとふうう心のうちいなゆづ
うてこきうん心うんそべきれ有うよ
ようげよおしかうれよそうらいく
ふぬうこうこうきは泊との所けうしこ
表ここうあうさのこうそいうさくもれゆ

[illegible]
[illegible]（中宮ノ白（アハセテ）ハリンロニセヨト）
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つるくてさてもこゝろぐるしくもこゝろのおよは
ふまでさきはよさそふさぐいどよそ
かはくはかれぞれ皆例のことかうしどもど
きこえくもはぐぞこゝはてくどうこと
さうもしたくうも出はかしげるうくの用はう
さまよふぐしかうはのうぐしげよまれと
あれどうよもてそこうはしたせれて見えと
きつるやうよをこみのいのはいとうげれも
うとて云（ル俗ハたしう）やはみどぐべてこと
かはくはてくうしぐふどくうくこゝろつきあ
とかはてこれあ

（白美）（ケ〜キレイラン）（ケシ）（心つきあ）

いなくいはくかしきさうれとこまう
はてりうれよ例のやうはあはものごりぬ
うエうめくういうよもそかうんと見はどこ
さうめきてさうこもうくうくはべさぬの
くはどるあきれそはは皆なんしかのくしかう
きうれぞよるいきうはうせまりれてまどけて
いわう見れなんぐそうはひのきそぬ
しはるう弁そのれつうはとまらうとる
書いるのしぐいとうせとふしあれれ
うんいぐうぐうはうはうそうあ
きぬよんうはるうやと見えそいとく祇

（中黒）（八まり牛まこ三ニ）

△是近一景

心ばせうひて見やいださしごろにいて見て
そうでもやごしかどうも今とは大夫ハ美ニアハシトまで
さこそはそしかうよそいわのしと東で
うかぶものごろうんいうようぶびてこで
れくの好へで心内ハ美ノ
ふりうごちいうちいうまでミラルニ青そうしろ狂よ
風の吉からくしよ好ものさ内なろ
ふとしなどいしくしく内ざうとときへ美
れ再び好へるかまいいえきてつけれらで
とこそやとちびさいろおあでかよお
かとものごろうとうミろめうしとろへどる
ハ美ニ

れとおれでほうくよともいでまて合け
くいとしさどくくしてそ美ノ好へつて
じとこりうようちしも内どろこれらひぶと
お好てやとうるさ出ぬとうくもひく
れ好めうよ内ノ心しなく孫いう好へるをいい
ごうくいるもうわざとしひつぶれて
内ノ君トれをようくれかでやとろへどさしえ立ろ
てれでわおくくこ好へで史のかれう
なうようらさそでとなれば
本帳のこびといさけていうめうと
うでういとかくいるよりれうへとこい

あるじ、かやうにさうぞくのてうどを屏風にをしてう
うきうれしうしげなるよめ行いぬ行ぬ（中つ巻ノ一冊ニ）
しごとしてゐるに、こゝろ行つかれどゆい
ていとすぐれてよめ、ゆゑ、うとましんとして心
ぐるしさのもぞくてもうぐいさうきうろう
なくてあらこゆるものるものさをこゆい
でけれよ今しとして山よのうち行しクへの
はさゆかぐこうで今の心ちていうぐいくう
れうく受し行中意心物をこしうり行つるを
心しうるやくらうれうて心とさうし
行よりうくゆ行ぬ

うぐいすくらうこうげなうりうさいゆうして
やく受ゆうゆさうこうげよゆうれまうどひ
行つるとげよ心もちうぐうるこゆれば
いくくゆくもうる又をしてうく
れ行へうんけうさの内ゆやう心うく行こは
れくこうれともうそのゆといえこひうれま
しうれどれけいのうぐうんうちうそれ行中君
つけよゆうさうれうるも受てもうじば一ぬ
中君ノ答サシラキテ
いゆる行ちてつゆるゆうれものうれそこ
中君カリヘ
このうぐいゆよりうへもいのうゆうんのやうや
姫君ニアサクラセハレジニ
大君ニ
宇治ニテ
てこうていゆ何のゆうしうゆまつうき

玉カツラニナラヌネミハナハヤ
フル神ツツテフナラヌネ
コトニ

さ夜ふけてのこし所にかいくれどもいまゝそ
じつとこゝてゆの
らんやしきわざれとだにうゝへさう
もいかやうけんみどこゝ大こ例のみ
きりよこそのぶる心らしてがでゝ衣
よこまはしこれこらいかさ夜とおど
ていとしてもうしていまて所に行ら
こうれしくせのへれこゝあかるこさ神ぞ
つきなりうこゝとしハ井そきて夜
いぶやうなげよいひのそ神ゝまこな
ま夜がくしこかその地ゞ川をれそへ

古
ナカシトモ思ヒリハテヌ者
ヨリアフノ人カラノ秋ノ
ヨナレハ

こゝへよこゝとてかひ出さんを所れどこゝ
ほしよもつきごげよておし
ゆれ人もの
なくそさるよそゆをのづこ
なれ所ゆこゝゆをのづこ所ひて
こゝかしそゆこゝ
しとふく神ゝそゝびさゆどこゝ
らつこゝかるもゆ
けつゆ秋の夜ゆ
らてゝづれとこゝ
こきれけそへ
ひとひとやうゆぞゆう

万
ワカサナルノチセノ山ノ後ニ
テフアハンカナラスケフナ
ラストモ

ぬ心ちして、ゐ(井)ぐしたる
きくのはな(花)の色こそ
と聚て出給へる
よ(夜)ゐ(井)ぐしたる
出てうゐ(井)の
とゐ(井)ぐしたる
ゐ(井)ぐしたる
と云

ゐ(井)ぐしたる
ゐ(井)ぐしたる
ゐ(井)ぐしたる

ぐしくおぼゆ（中ノ姫君ヲ）とこさう泣へうゝ心ぐる
こと（えゝ）ぞなりける又ひさかるゝ（蓮）を
しえかりしをもつまりしかば（歩ク）くつき
をばいかにしかるべしとも（中ノ君ニモ大ノ君ニモ）
らきしらぬ（姫君ハ終ノトシ）ものしげうさもけ
しきなどのをぐらげるく（姫ノ）ものしなれすぐくか
かるべくいと心ぐるしくと（姫君ハ白ハ引ラント恨ミ玉フ）
しなんとこえをそへしぐるべきとい
ふをつゝ（宿）て文（宿）てよこしを
をんなも（ヨキ名モアリ）くちをしくおこが
ましき身のうゝ人（白ハ）ぞよりしなし
なぐえんじをきて何ようしをぞ出
なぬ（紀ノ君ニ）ものいとをしくとさめさ
ゝ（心）姫君もいつるつとぞりを
（蓮）夜中君釜テモシ白ハ長ナラスハ
て心ぐるしくなんひとけぶれ
さうをにうしとばをさ内ぐこふ
なよ（蓮）文ゆう（心）御（キツ後朝ノ文ノトロニモ）ハうれしとえて泣
もうけをいやし（秋）のくきもをぞが
ほよりをとき枝のうえくとうね菜し
うる紙
（蓮）かのぐえとをさてをあるる山姫のいづ

露ハ蓮ト枝ヲル宿ノ萩カ枝ハカリマリ秋ヲシラスカホナレ

古 同シ枝ヲ合テネ紫ノウツロフハミシマリ秋ハシラハロケレ

（茶カチヲン）

[illegible]
ふりくさしるてとてこと[illegible]
てるしてやこまんとるかうとこれも心さ
もぐてこうしうまうれうとつへば
おし[illegible]へと少づんもうそえてこそ
ようきにくてこふこれは
山びかのそしらるひだうけろ
こうやかきなるうんこまるひようさ
[illegible]るがおしくけこうれれえろへしと
けまじくけえ心方とふてるどゆづう

[illegible]
ねよとびて[illegible]へ[illegible]るるかりそのひか
くくつれるしんもいとかしくるけ
あきれよこうれていよくふかのこ
なしくくやあへこくいひてんるど
そかるかいくのこんあもろくこうと
ようくよ心とそしりんばよくやこうだら
このせ中とこそてんの心ようづしもかい
こうくくとくこうこうとぬて
とるべくるそこれのようおるしけく
ようこそくこんいとんこ

古
城江ヨリ棚ナシ舟コキカヘリヲナニヤ立カタリナン

なりこそ
ももそこ〳〵いかし
らもかこきあれよ
る法こ系の文やは
うけらい法へしぐ
法と文も見そやう
きうこと文ゆ
よかまへの所載かの
そこし本なのあ
れてやとそよそ
うやうりよ〳〵

まりう見よつ
うくうらうりう
てかをなうう
くういて出法
代力五法へれ
うらへよりの
うそ法うのう
よい見て出てよ
なりやうげしの
ととこふくさし
やうのあしぐ何

中君ヲ自実ニアハセト業ノ思フ心

まつて空うの白いの
うくうらうりう
てかをなうう
くういて出法
代力五法へれ
うらへよりの
うそ法うのう
よい見て出てよ
なりやうげしの
ととこふくさし
やうのあしぐ何

さ夜ふけ方になりぬれば園の花のかげもやうやうにうすくなりて、そのけしきいとをかしうあるに、月もさうさうとつゞきてそらにうつくしうまめやかなるに、山里の長なるわびしさ夜ふけ方になりぬれば同じアレドもさらぬ別れの花ようのぞとて、しばかりとうちいねたるに、花のうちにうぐひすのなくを聞きつけて、

白

あかなくにまだきなけとうぐひすの名をしるしるばかりなるかは

姫君ニ聞セテヤウニ

くやしかりけるかな

名ヲシラスシテキルト

春をとわせざりつる心をば

黄

さらにふきけるかな

フカケレト

そらうくべくもあらぬ

黄モロハアサノ系

しのの露よりもなほ心をよ

シレナ(テノイナラス

るべてやいかんと、ヨリ云ん

しまいたるを、白月

しるしるとそなく

姫君ノ

いとしづかなる音にて、人のかたらさ夜をいかにらんへとそいふ

いうもろもろこしよう

いうらみをしをおとしたまひしをりをとり

らうく心だにのらうとそうそやうりやか

じどをやうく心うとうをうしをはのごとしにか

姫君白ニ逢テモ

くいはしはまりをとこへとうれい

なくくしうらくくよこうじうはかさ

黄ハ中ニハ下ニ云ハルヲノメヲアハ

ましこうふやうみのくやう

なりとうとうとてさきえこはのうしは

大ヲヲ云テ中ヲ(ヨラ

ナリカニテ

ぢくえをしぐまをゆづりまをていげり

白

しの恨ともおそぢみぢをよこうまを

コミラ(ル黄ーんつミ

ヒカシノハテ
時正(ジシヤウ)ノ吉日ノリ何モ
ヒカシハヨキ習ヘ

ふかくもとうてこころせどくこうのあ
れもかしこくれどこれ何のうつろはれこころざ
ゆるよもそこもこころをこころうるべくれおど
やがてくるおりてやすしおもしろ
うこころこゆるこもくまんまこおうつるおど
いとまやうよのおへど心どもよおも
やくらのびきぬべきくきいこしぞ
なんおるれうまつくこえづくよそ
おれやとておうしゆそべきやうおどこゆ
よおしこもおれ大日ひどへのもてこて
ようきなりくれどくこうれぞ心づくし

てくうどくみひてゆてうこさいれえ
などおしやうしいこ出そいうれおうさいこ
づくせいしおへどいとそうどくこさ
とせらよ蓮ノくうこうこなれどさうげれ
くしくそなつくもうくおへふるわ
うおどもあれどくくしきはや
うおどもうれそそれういとち
うさこうの人の変よいてゆびて文をいお
ろしなうおておうこぬとあうべき
人もうけれど夜ぬべくうづよ出ておう
くこうしくさいこいとうべし何の

自然治ノ力ナリ
ナニヤノ中ヤリ
杉ヨリコヤ習ノ何ノ

中納言殿おとゝ殿をとてけいめいしいわて
礼ナトシテ
ヨトロキ忘レルカ
恋ごゝろゐ殿ゝてこゝろくさて行へどうつ
ゝふることにかゝるとさてゝてゝそゝ
中君ヘト
姫君ゝ中君ゝこゝふることおゝうし
ゝいさゝうゝもこゝゐのゝ心ゝうゝ恨行
しゝゝうゝかゝゝ君ゝとゝゝ行ゝそ心を
ゝれてゝし行ゝおゝゝゝゝゝゝゝこゝゝ
白ヨリ
ゝゝしゝゝひてゝいゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
もいとうとしぬべしとて行けれども
[illegible]
[illegible]
[illegible]

らんもなりぬべきなれどこの世よりはかなくて
ふるねことのあるもあやふき心づきなるかり
てうくるるわびよりはかづくるるれ心の程
とこそいふなれひるさき心おさなきもえて
一度男ニアイシテ
なりはてをこうよ覚えかづら
よそいとこいたるくるこの世にてかくて今い
ふこいかし蓮ノ大夫ニ
しのまちはなるだにつしいませ行人
一ノ月ヲ見テ
風へとなさこうこそ覚えうるとそ
くせなどいふうるはさうよ心よるかもねは

よ行かれどうれれ心ざしはことよりはりと
いとりくこの世ふるようれてぬ蓮ノ方ニ
ときおみく心うくはりれ行いぐいせん
よ覚えよりそれ孫されさうぐのるあぐら
ていとつるもも風とよはぎうくをて
くりうまりうへもはるじ志ろべとぐるひ
物へるへの心よもはさまるはしのはぐ
てそのそんとい覚えみんやとてさう
じともいきやどりけべきりきるれい
いとんとおく心づきかれどこうらへん
とこんろあてはの物くせとふん

原汝
後行キシニラヌ間ノ出ヒキハ
タメカニ言ルベカリケリ

ていかなもうしぬことそいふもく
ふこゝろどらしぬぞ(きこえぬ)用のこゝろふこゝろが
ふ心らしてなんこいいる(木有)(蓮)そかしれぞ
と、爲れやうよあるさまもきさよれらの世
ろうよいひ出るもあるいに昔ぬ流か
どよことさうよおこうさてたろ出ろ
ぬのあとひよそいなうぬべかれく(蓮)
ふ中ニラヒルフ
まふ心の行をもいうあうとういと
大考ノ人ヲ蓮ガリカヒ
しもうに行ろんに行てとくおどろく
ふ心うくかううあうあまどもし行そ(蓮大考云)
心うりかよおじへどそうえのどまも

てあしん心ろもうようこてそやう
そていとあやまきに行家よ(蓮)あやそ四
ひりうに行へというくるびに行へ(蓮)ざそ
ごよことろとがいとよくの行が心もろ(大考ノ説)
くらうくえて(蓮羽本)行が(大考蓮)れ心よ(蓮)ふてどふ
ことのうぐひなけれどそうまでてく
なしくうに行れいふぞにてうと
まきれよえてそやしどあそんく
なしいとぐせよあとこでひべくなんえて
ぬとてさうばへべそなどもあしさせん
ひとろよかれそさそれそて行(蓮大考ノ説ヲ)

年コトハ老ノ字ノメセアハス
アハステムニ夜明ニフルカナ

年ふるまゝにこゝろ
そてのなれぬと
けりをおぐさあて
くとおしてうらも
ゆきの高しめもあて
よ山名の心らてあ
ゆくけをひようの
さみくてエ紅べき
心やまくこ
さわぎなり
ふべし

ゆるわけぐれの
くんやとの紅へ
こぐよう
とまぬをよま
いとのぬ心ら
てあめしぐこ
けようこ
れくよう出
まいなし紅
げさうよい
だいとあや

万
若草ノ新手枕シテ、キツメテ
後ヤ〜ミテニリく アラナツミ

くれどさうもいかしさ海なりうれ心ひかん
やんとおぐるあうらうてき狩よといそぎ
ゆう沢たの狩もゆうさいとうとけく見え
れて心やそくも立えりうよさうんとの
ゆていとうとうきを乗とやへぐてん
と立ゆやと沢かうまぐくさとぐうぬ
狩の狩よかうつきぬらうよれ車うを
てうう沢とやうなうゆ車のさ海してく
ろへうれよ落ちうひ沢てをろうゆぬ文
ぐくへの心ぐしとゆん立狩ゆると上沢
ゆうべのかこゆまうさとぐいて狩くてう

つもまれしぐ文をいけしうれ文をう
沢山里よい沢もくうたくの心ちい沢
しぐ立うたし沢へうぶ海ぐよ見うう海へ
りうを文ゆもぐう沢くりりうよと
うしまうりくりくりゆ〇ぎとぐいんゆし
沢てゆもしゆうをを沢をぐ立ぐうり
しさ海をもさくくいえりゆきめ沢
をぐとうをうよ心うをくうをゆし沢
へぐもいうよ海ことようゆぐれ見文
ミをしぐ見ゆりうやうてゆをり
べのかををしぐゆやきわざれとん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ことそとろこよやとしこんよとう沈て
れにうこひみどうちあくねそこう抜きぬな
しどさうこよおしくいこみのてまちぬて
抜りうどうみるれかうらとそそさおく
しまうしうりうもうれしさわざみう
ぞういかやしきさうじこハ祈ものぬ
さ海とそけくうこれ手り抜きてよれこそのの神
うさくやうれじさしくべもうらみさけく
羽
世中よ久しくもくそ抜ゆど的言の
おがあうもうれにとのこみん心ごうう
ふやゆうよけくしもうくさ海のこと

中君ノ
作ノ

実にくるしまずでいたそんじ年へう
心どもよいさうもよのことうともうさ
うんとうくくもくもわぬ心ひうとうそく
物ヒテ大君ノ亡ハリシ事ヲハセメキト思ヒナルヤウ
けてのこやいこもしんとこひうやしもわ
ようくくうくひうくそこづ
きこくもよこうくいこうよこひ
けはうしこうしやげよくのつめうの
しうきれ髪みうりんいとそうけ
しそうえうのうきこみんよこうう
さ海ともまんしくしとかえうそた
こもそえんとれうとのでうひけく

白人ノ
アナガチ
白ノ
宮ノ

ぞ行へ　志
ぞしの行ぐげようろくくはれた
ぞしをきそでとくよこぞしきこ
とそいて　中君大君ニテ口カハレ　こわ
ろづよこか行て　白　きろ心もなくうれ行へ
ぞしけもひごこ　白　中君生ヲタスネコ　よべてみぞいうう
しと海　白　ふ出ノ所中ノ行　そうよのつひよなど行へ
ふくれ心ざしも　白　ぞうよやくくうひ
行てさん山道のそうけさもひつく　き
まで見て心ふげよくひのあ行へ
ど　中心　長　中君　こわさ行くぞひて

ぞしつくの所えしそうよのつひの
へげらくくやせうとおどそいてくのさて
そまゐともこなれ行るはのそづしさ
しかそわこもものちやへ変よはが
やまゐゐ人そなけはくくしきれわう
なれどくよこをくはくてをいあつる
心ちよこいけぬわるきはのけくもくくそづ
くくはのごともくくのくよにぞはやこいなら　こたノ行
ひくくんくそくるきはいくくそもひ
いでんくこのくてこ行てさくいはえんもぞ
らくくこてくるこのにかひいはさ　本

ま行つる。三ばよりうち来てすらわらんは
いるとくごのあやしれどもこしよさうべき
いそいのことよそくとうてかまへは
てせさとおもうどくこうけしおと
あるようなりてをさんれもくのうるんこと
そぐうしれておそうらのあておくもろ
う海いとおうしげみうこのうこ心もやれど
うよけううきやしくのうあ長よなきけ
くこうぐでおそうしいう中納言どのうちうべ
第一へとこん行へしうしぐ文ばくのうらうも
こうなげみあるせよこふ行へううしてみん

（炉煙ハイヤメ 煙ニ玉ハチハ）

と来こしぎうやくもやとこ行へれどこの
ぬ所のそううるばよ行ぐうう心ちうと
ごやそしてやそうれ行とうられむ
うしよおいつうこうさ行てまうけのぬだこ
まやうよぬひみどしもぜうう多とを
まうさるどうてこうそひけのまうけこ
よいれておいくのもくよくのれうよとて
行へう文のれうこよふうひうようさび
ていとおくもえとうう行つあれてざうう
まやあうくうなうこぬけやみどうてよい
れうくうれうこうさ二くうう

（カロキ役人ヒノ）
（長橋サマ）
（ナラレヤキセズハ中ノツチノ文コトノニアラズ）
（月ニ井ソロヘルム）
（ルヒ衣ノ宮）
（木ト中ートモヤクキヌ）

いてきすもしらぬひとのれぞその神
よこぐるいのことうれば
さよ衣（キヌ）ナルホトガカリナレユヱ（アル）（キトリ）（一度ヒ）
とぐりいけぞ
まし
ことぐるいうけ
いぐ
えこ
とい
ぞ
神よ
油

てをれば思ふ人おもしくうちなげきてゐた
しかそれは中納言の君の文を見て
心ばせとなげせぬ例のうらもうらみて
ぬべきいとくくしくうらみぬるを心もと
がれてあんとあげしげしげよ見るうらよ
くれぬと見て自ら
白ノ中君ニ自ケンキヲ
ものとこそ
歌
行末へ
行末へ
いそぎまうでられぬ
明石ノ中宮ニ参ル所ニ
や見てまいらせられんかめるこ
そうけれそうつれぐくつれぐ
き文つくへの言葉
白ノ歌
中宮ノ御ニワサトバヤシノクワフント

うんとうかのあさぼらけ
きにてそ見るの
みやこことなるべしせよこゝあるぐらの心い
みよごとようはれうんそべてあせさ
行こそ中しうわぐさうはれて
よいとうしさくへ
白ノ歌
こをり
白ノ歌
そうはこよいのつこよいうそ
もいこてよなうしはうんこの山
姫君ノ思ヒナヤハ白ノ歌ハ中宮ノサハセモノワタルモ八月ハ月ハ三月ハ八月ハ三月ハ
よ馬
ものやさうう
ぬるうんとまして

ものよりうれしく思うれど、言葉にいでて問ふ事
出来ぬ間にもよい中につゝまるゝ
ことゝなりて、思ふこゝろのうちにのみ
中宮のおぼしめすよ、思ひ給へられぬ
つゝ、あさましくいとおしきまでに思ひ
入るゝ人をうらへ、なつかしうていさめ申すぬ
ゝ、ものの思ひそまうかれて
のゝしりそのもろ〳〵の文
行へど、大文にいとくわしくおこさせ
いろんなうれうたゝ、もくそおこ
まうべうのうるはしうかゝうして

しもぬりくれ、ものとゞうよみそへと、あはれ
ゆゑつくるのつゝまるゝ心つゝ
やうのうれみのしひのさそゞよけどもこそ
いつくしうして、心ようかくぬうれとるへ
和心のやうにいつくしうこゝろのこゝひやゝ文
せよあべうそうしよれうごさあめう
ものうゝ、えそゝこゝしかゝ
奴のゝ、のおもの心ざしはいづれとおく
ものびしうのくやそこうぐよかし
き中にもあてよそぐれてめまこまう
かれとさうよくこうぐれそあじの心そ

毎ヒトノ心〳〵ニ有ケレハ
思フモツラシウキハ苔ノ一スヂ

いとさきそくよりそのゝ松てゝとさふ
うしたてゝふくへしもあらしさそつしけよ
もそゝぬ松つゝはうるしぐうきくべそ
つゝあらしこゝろくるゝ世中か
心をうりそゝぬ
ゝれぐ名ゝしけよそゝとゝゝこの心
りてこゝゝもゝゝとさはくまゝ
ゝも長ゝもゝゝ立てもゝゝ
つゝゝゝゝゝゝゝゝこ
よゝゝ中納言殿のゝとくゝゝけよゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
でゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

れてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さいくげよ打ゑこつくあてしき
れありさ夜とゆめのめ（ダイテイノ誤スナドリ）ものへれこそり
ぬくまつ〻ぶいよくらかつまつ〻ふ
やうなりれ（ハ）くしとおしつて姫（大）恋の心と
わやこ〻くひがくこつくてあ拭とおど
さくらいそこゆめ（ハナ）ざ（ハナ）ゆ（ハナ）ざ（ハナ）ゆ（ハナ）ざ（ハナ）ゆ

△是近二月分

くるしき哀なりとさうし出てもせ中とゝはぬ
げ流文しあるべくいうつるいとまの花と
ゝうめぐりそよ花心やそうまつさとよ
そそとぶとしひとうとうて見て行う
大文の字しれしさ海みどうゝうめて行て
白月こんなるこてしあるんというなりようと見
も肌美ゝそもとわうるんようぐ海でも
あうくゝ海ゝさと心の花やいてとうとが
いてゝこゝぐれ流へが心ゝうとまと花
てなんゝはもようくいえまどひうゝじ
さうべきさ海よてちうくうとうをんと

満雲

世中ヲ何ニネトヲ羽おうケ
ユキ行舟ノ泊ノ白ナシ

さとゝうくまて流人どうとまはうべく見さ
ふんゝをとまてしれ心の花のうさ
まとゝ心をうれてわがれさ海しさま
ぐゝうげしてあんを行る思はうど
の花よ陸まどくとあけ流て行たよ
いざうゝ土てうゝ流へぐさうゝ行る海
取うゝの長ゝくくて例のゝぐつゝ舟
ゝくそよはうゝ流のゝうゝ波めるれでも
あるくまるのさ海れと文なる心よおう
ゝく見ゝあうゝ山のくれはうやうく
こゆうよゝ恋のれうゝれまはようゝく

うげしてうぎりのくいつきさくへさうん姫
恋もうえうこそいはもそ出べうなしこゝの
れ秋（中二）ものゝ見ぬいとはいつくしきぞこゝ
まやうなる白いおもゝ（中三ノ白ノ人ニ）みゆ
かりう中くなる心しりそこの吉ゐいる
けうしうぞ宮治橋のいとゆかりてうし
きこうくおどきうれしけどいと
ゆうまうききしれきうとうあよ
いそ年とへ行しんへおどうら泪（白ノ）ぐれ
行つるといとそうしと実行男（白）のれば海
れうぐうなくおまのあうしくきよりうてけ

世のこゝろぞ繁うのあまり海へどこよりさ
まうしとくいこゝろおじ中（意）しゝ中くれめうれぐう
しうさうえうとそこ行
れしこゝろふうこゝとうていとくうそうこく（キイノん）
ふうこきのうこにてたづしげあり（白ハ意ニキイノ行ヲ云ヒ云ヒハヨク）
しまうそよ（中八）こゝ中しいはしてこよおく
きうこよ一ぐうもこ出れ迎（アニト）しぐよけ
つまうこそこしをひさうこうぐし行て
じくこ心ばそうんとこゝおうもこ行おぐ
ううてとこゝこうう行へぐいくこゝぐう
もよりしおゆれぐ京（京ノ羽ノ）よおうしはさん行

ヲツクシニアハスエト、

をしへなくこゝろ荒ぶるまとゐこゝろ
つげて心ようかなる人来ゐれとをしの
ぶる

白 ゆきゝんゆゑ（指ミヨセ）

をく袖や東よりぬるゝ水のくゝ
ろつてやそらいに

中 をしせのの日ぐしのこゝろや宇治橋のと
ふけをさゝ中を行もうべきことよ出

どゆうげしきれけるいうきうゐ（おれて）ゑ
ふれうげ中さ人のれ心よりこゝぬべくゝぐ
いをくうげゆうさげのそぐゝとをく

てをくれおこゝ所ゆうつがおどもへ
れぞ物哀なるいざれうれ心れけさそぬの（イツモヨリ内ベ）
ゐやめもらゆうゐ行てくべのそきてをする
中 紅白 ゐくゝをゐしげなるゝ海
ぞをいゐてうくゝ白（ゐをしハ）の八一をくゝやげ
ゐゝ海ゐゝとをしよおどめぞ中ゆゐそぐゝ
心ぐゝをうつゐれくをくゝ出てゐゝら
もくゝゆまりゐくゝ海ゐくゝまぞゑ
せゐゝせのゆをゝとゐびてくゝせれ行よえさ
をやをくゝしまをれをれぞれゐゝを
ゆゐうゐ日ゐゝよゆゐまをゝうゐ（ほ）をせれぞゐ

まいりぬるやとこゝろおぼつかなきは
などのたまをいと心づくしにこゝ
しぬべきまゝ（本ノ上ヨリ中ヘ）ゆかうとて心ぐるしくもあれ
と姫（大）君をえしあげうしどいとゞ（中）心ぐるしの
こゝろづくしにたえんようをたゞ（モヨセハメ）なくもてなし
てゆくゝゝ（大）ぶれうこゝろこゝろ（大）へゝ
いよくゝつくゝえもそ中（芯）の君もゆくゝと
こそ（ロ）えもそこゝろとこゝやうてゆくゝやま
りまいてゆくゝこゝろ（ロ）をつくして文（ロ）をかきおくるこ
てくらしぞ（ロ）けりきとこゝにいとゆく
かもりこゝろこゝろ（ロ）をつくしもこう

（本）ろやそうけ九月（カワキ）十日の花のしたの野
山のけしきもこゝやうまいまゝあさて
うきくらしそのしゝあるかそうけりう
夕（カ）ぐれ文（カ）いとゞこゝろ（ロ）をつくしてこゝよせ
しゝこゝろ（ロ）ひとつをいとゞこゝろ（ロ）をつくしてこゝ
そうて多うゆくこゝろ（芯）の山里いかなんと（ウ）ロ（ト）リカ
かとゞこゝろ（ロ）をつくしてこゝろ（ロ）と思て
りうたよいざうひゝくゝ例のひとつれ車よ
てかたそゝぶつてこゝ（ロ）ゝ思そおぼ
ゆゝ人心のうちゝとゝこゝろ（ロ）をの
かゝゝもこゝゝ（宮法ノイナ）しの心ぐるしきをこゝひ

神時雨布留の山里イカナラン
行人サヘヤ神ノネルラン

古
有スヤトムシカテラ是ニ
子ハタムレニシキ一テソ
忘シキ

あし流そうれぬのいうじ心がそげなる
よ。ゑくいやてしよ。ゆそくさて我をつる
きのそごさよ。ゆふりぬれ流つるに
むいよのぬよにぞえうへて。白蓮うりつれ流つる
山ぶりむいうぐじまどいしせざうへぬどしは
ごろうらつぶやさつるなおみくぶつしさへ
ておまいいさけくろいおどそ京よさう
づさ有ぐよけらうじそめだめいどう
へ三三へ。ヌメリ。ゑて。ゑてそう。弁比あ
姫逢ニ三ツ。ツリ。ミヒト
かつりあしろ心あうさへぐどうなる
まらうとくえんどろうさうびめ恋しか

逢ヒニナリ
タヨリナキ処
君タチノテ
イフ

ようれ流よさうしらくのそひ
流つるぞそづうくもりぬべくおまうで
うう。へど心ぞ。ぬのれどよぬ山く
ぬいれとげよへくいおそぜうりり
とこあそれよそぐうしと忘そる文を
宿ノ山里
所よつけていとしとようづさ入そりて
け来とあるぐうこよ心やそくそおれ
ぬいまぐまうれ兄人サヨルヒ
よぐいそあち流つるのりそあうる方
流つううこ流もうそぐよいとおそ
ぬうよう。へ流こ。大ヲ恋ニキ

わるかるてのこ
えぬやうくことく
れにうへてもゆと
いとくうとうとと
いとかるよいぞう
人のれ心しるるぞ
よそわかれ和もく
くでやしうしれと
ゆてう文のれわり
ゆへどうそあつて
どいとかしくて

芳大君ノ切ニテト
芳ノ芳ノ大君ニ合ツワキモノト
芳
芳
芳

古
なるべきことをもとはんとおもひ給へしかど
なれどうとましくて人もさそはず
心ぐるしきいうるようとはのようら
ゝいとなつかしけれどいとやつかつ
ゝ見ゆるもやつしすてれ
ゆゑ見ゆるれ心
めよいうるべきもようとあげさぶらは
て何のこゝろ山ゐるしてゆめえてまぐこひ
孫ならんともおぼさで中納言のゆるぶが
しよ心のどうなるうらさそうやま
ゐしとの給へどせぶ行やしと決給ふ
なくておうしまうして行ゐくへて給ふ

ゆうぞうさよものとはいうぶくゆば
しうれ心のうちとうれてひとぶにに
と又いうるへうやしとえるげきに給へ
ぶげよ心づくしようるげなるわざれ
とうる京よもくろくてゆうう給べき前も
さそよのしゆ行さぶういぶぶうそ
さつうよ信給てさぶういぶぶうそ
しうこゆまのれとと見ようぬよあまう
ゆうとえ行べうそきぐとうき
れさぬしゆうのくそうとまて給てう
ゆうもうよもうれ給べうしぶいよ

くゑしみくていぢし（キシ）ぞ人ぬれこんもそで
うらくいとあはうあべてよあばそ人のさ
くえづくのそばうして中〳〵心やそげあり
さやうのみくよい覚えれぞり世中う
つうて三らどこさきいの覚ときつうまくよ
もくしまきいぐうこうさ海よそあき
めみどこうぐ今くいとあやうよ心ようう祝
つうまくよそおうん方なくくうこうけ
つし中仰そこ三条の文ばうてさうべさ
さ海うてらくしーまくへと覚そげよ思べ
く心やそうこうう思いとあ心ばうこされけ

ぞ思祝こうよこと
よえうやし祝べうやうし心ばうくうてみべて
くうよい祝うしとと中文みどまりし
ぞしうもそて三ばの（堀中納言物語）ばいとち
くしぬこのれいうあいこばしもあしばいとく
和歌とばうおうし祝くぬううげさよいうば
くうそのうてばうせなうばやみどこそ
明月中文ばアうハト（表ハ三八君ハレス）ればうしまもうくへそ（十月一日）衣ばくへみどもうば
しくばれうハのつうへみど覚うて九丁（表ハヒトハ（名ハアハセミスル））
のくしばくべこうみどこ三条の文ばうう
てこうう祝こへ心まうけよ志を祝

後　チカヲカメ
宮法山ノ紅葉ヲミスハ長
月ノ之行日ヲセカスソ
アラハシ

ありとまちけるべきやうもなんみどいとあてさ
こしあてをあはれ法山月ぬ海ぬぐりの世界のさうで
くれめしとあるどこうもの紅てはいてもせ
さをあれうり十月一日ぬ（イヤ）ぬ（恵）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）
あらんとそくのうしまし法て紅葉れらん
ぬべくり法てこ文ぐだ度上ぐのとろ
ましくえそうぎうとあてとえせど
あせこれいそこはいなれどものづこと
いろどりてたのあはいとのて寧れの中ぬ糸
と法さそいは中和ら度ぐらぐ上遊ろえ
けうまつう紅こうきくをあうう法こよい

（コトヒレキ）
（右）
（タイ子義ノ女ノ中ノ）

白詩　白ノ れ出ノ蓮ノツヂ紅ノ
ちなうう中やどうしれうんをさうべきさ海よ
おはせきさのまそ（を玉ノ）ふ（ふ）ふ（ふ）ふ（ふ）ふ（ふ）ふ（ふ）
そうれうるうるうよとしてせて叶海のま
ぎれよそうあてそやうもぞ作うおぐ
こ海やうよあし法てうこ（木君ノ平）せけうく実しこ
うさうるい岩ぐれよれもれうれ紅葉のく
らくそうしうるけやつとうのこうさて
うせおどぐしぬ法（蓮ノ）ぬうぐぬされか
どさうべさくあどとしれ法てうけ（木心蓮ノ紅ノ）ぬう
つはなけれどいうぐいせんこれもうべさよ
そくとふゆうして心まうけー法てう海

そのゆうぐれこぎめぐり面白くなりて
じぶんもあの月のぐあひよかるべきと
よき上にてゆきくぐこそうらさうじこのかた
海はそれとしらわたなかぜとあきくら
みのうぐうのゆうきこゆるよ心ぐ女
きこゆるぬのもだれよつきておどろぐし
きまぐれえもせのくのあのびきうづさ有
さぬうらぬ丹ゆるうらもうもことよい
けうきとしこれうもげよ七夕ぐうよ
てもうう光景のいうとそ行出あみど
えしうう山つくしこ心ゆうけよと

白三光ノ月

白ノ麦ヲ年三度七

白年半院三テ

一夜ハカリニテモヤ心人ニ逢テコソトナリ

イカナレハ近江ノ海ヲカルテフ人ヲヨミンメノメ〈テ

ヲトヲハ

ヒタノアミノヤ濱ハ今京

ヨチカメノ人ノワレナカルラン

せうぐさうふひうそうれ時よれ海さ
しもてのそいつてあとつくり行れ葉と

井井院ヘ

海青子水色ノ

うちくうくうぐし
吹てとのくく心ゆうきこうくさなうて
えくあとこの海の心ちしてとうくの恨

白船者ノコト汁ヲ

いうとこのこれ心そうなう時よつてうう

ういいしてうそあこ

ガヲミテ

ガそうちづあてくれま
ぐてうくべさやうよ沖行行よ内うう中

中

北者ノ方ヘ

えのあのはせごとうて寧柳のあよれ海書こ
とくくこさ作ぐひきつれてうふて

ヲ紙ノ本ニコトモアレハ字ヲラヨク叶リ

ニつきさ面して彩り飾へ[illegible]
ありきいまい[illegible]
といろどりて後のうれしもうるわざ
なりをともくしきへぞ[illegible]
くて俄よおそ[illegible]
しかどろきて[illegible]
うるよしうるくなりぬ文も中納言も
[illegible]
心のうちをいとぞいらぶれてゆそびあ
しけりてとえそよ文[illegible]
うぬ屋上人なじ[illegible]

白蓮ノ心ヨセ

[illegible]
なしこよハれ文をそ[illegible]
やうなるもくいとまあらてゆ
しいろもとこ面ぐしうさけぐ
け[illegible]
とそれ[illegible]
いかでうきされ[illegible]
なきわぎ[illegible]
て屋ぐふ月日[illegible]
[illegible]
き[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

紅葉ハ流レテ風ルアシロニハ白波セキ入メヨラメタリナキ

拾遺人麿くもゐにかりのなくこゑ聞ときはの山の紅葉

もみていとくらうなりと云ことうぐうなりあだるのひとも心をなやて

多くの木ぬ葉よりてきまぜてゆきぶと

ちもくみどいとくりしきしるへのはくへ

よきこゑなくしてこゝろ心ゆくれわりきようろ

のれ心ちいとものつとてこゝろてをを

ぬしかあれよけかるこのこゝろをいとと

よかりくうきさきをよをひまがれる

ちくこのくみどもやはらげようてこゝ

やきんをこゝげなるとゆ中納言の君も中く

姫君白ヨラメヨ

うめやまりうぐいすなきわたるこゑ

ゑ白・こゝのそれもかりて君達いとの

ゑをこゝ出てとられて実よるあれし人心ゝ

さとつゝうゝ白梅ひくくようひれとかの

きくしもきべし心たてぬしまゝとて

大くしよこやうやうやと人のれいうへくるる山

ゝれなしどものづゝやあるめれど

いとかたしけ姫君カシテ

上ようてこ文のめ言あをひみくそ折け

れくみどくらくしよいて宰れ中れ

宰れ

いけスミテヨム

ものさうよひとあうあの

おさへや秋くさびしさ吟じ来てい
へど中納言
備前そ云てそれさき自分家も名乗も
たてまつるぬせと、備前書
いげこう秋くれ行く山里のあれ
くもそうさわと文の大夫
うくもうさ山里の嵐さよ心おぐく
もくくるくぞ乱中よおいこうひて行あさ
ぜ　このわくかそ
出るあうう文
秋くてくさびしさまさるあれを吹
京　秋子

かるくそうこの花風ごてしとつくう泥ぐと
ぬつるとかのうよこうるくてげよようく覚そか
ようくそのさうとるくて心ぐるさ
とこるくあれどことくこうくりけぐさ
てえかそうまよのぞけうくりかとだ
のかりうき所ぐうちぞぐやまとうく
もことよつけてあ侍人ぐ方れしぐぐうくこと
あくやいうこうくてぐうくこうあてぐうくこ
こくあくこよハそさ流ゆうけてひをこ
とうあうまてあゆうさの忘ぐてか
らぞそし治心まうけつくぐしいとに

古 イテ人ヲトノミヨキ
月草ノウツシ心ヲ
コトミシテ

かしとこそ人のいはんとすれ（音）

く月草の文なりけれ（ツユ草ト云ヒ初ミヨノウツルカエ一面ノ心ヲ）

のいろをさきけるとこそいとめでたけれ

とはそいとうくそうれしぬ人とぞ

かようのそこのこと後のうめしはくぞ

みぬせをしの昔物語よいろをさきあをく（下ニ云ノ心ヲ云ハスシ）

つきおうよこそいろいろぬ心のもまで

ふしのおのよごとしもそらことなりうきさてて

なりわれて人のきくこと作まうあ（上前ハ外ナラ思ヒス）

せうべきわとこしいさしもなるまいさ

わざのうくはぐ（交ヒ皆作ヒ方ハ）ぐあさ物へうやうよ放ふも

きてつる人ぶてうやうよりらきき往ま

でいそしうしうざんうしぬとなやしきまで

心ふしげよの物いひうこのかよこをるよつ

けてう人方のうさとこそふかがからさあく

もをれうくこと（スヨノ心トモーンニテモ）とうそろ心をうけしうの

中物そしいよ（姉ヒ）こいの物人宴ものとよと

こふんが人ようおこがまさこそこうぐ

北物よこうもうぐいとあやまうは

え流（ナヒ）ぎうぐこいこう海さうよ射面（白）しれとさ

つぎうのくかうきこととのあらぎうの物人

れどさうしてもこゝろのうゐ
ぶつるときもいりあさきをそいぬし
ゆしめと心のうちよこゝひのくうめれるこゝろ
ゐへよりうげこゝいはれれしねにしゆぬ
よ中注ヲハシテヨラス
ふもおもかゆうよいとゞぬ衣あうみひ
きれりきるとへなくよりてかし
て例のへかきうをぬめるだうゆう
よ青モ白ヨラシテ
いとゞしく衣とうり沈神もせよあゞう
へどうやうゆうるとうべきよそいわれ

中注
人の心とうへ実ニハアルベシ
うれてんともうしらへ大芭ノムヲスカシ
しあうくのこうりぞ海ようをぶれしとの
こいぞとこうをしこゝろうかよつわよりて
みうれぬべうこうそいうそくうる心ら
してせとそぐせとのかをこいうこと
もやうくのいまうりうこゝもそいうさ
ヌをしてうるべきへ親ケ
ぬしとへうこうとうるこゝ海そか
ヲ芭蕉ニアハ品ウナモノトテ
されうげとうへみやまをへがうゞさ

花和尚よさらぬこと
ゆゑらぬさまにいふべし
しるべしとこころも
ぬもとよりなれば
ぬも寒だう多くぞ
きりごとと申言こひてけれよ
てしまとこまりれもいと心ぐるしう
うへとられぬべいよ
こおろんかくしくらしさぬとぬ
くれのこゆそこそくぐこもこまり
しとこゆるつをそくきれぬゆくさの
よのこおんひつるうるさくよ

何トヲ死ヌイキ

師

自

ぬともうぐうくくとうのをとくくの
世中よ立まぐつと例のくさまよくへぬく
しくくひそくなくくくくくくくくくば
しつぐくるよこくくくくくくくくくら
こみぐくさしくくくてさやべきまだあめ
つとと心がそくくくくくくくくくくの
うよ思ひてと出てくくくくくくくくの
ふれ思いごとくくくくくくくくくも
ゆくくくよくくくくくくくくくくく
されあくくさゆと世人もこくくくく
なくくと清つ書のくくくくくくくくく

夢ノ日

夢ノ中

しやうしうのげきこうへもいとゆうさぬ
ゆうきうて大方心よまうをぬ
このあうきこのうりの
いてきて内よつとさびさことだ
ないとのてかのもとうけいでぞうしう
ことなれどを白書
ぐあらう中納えどのこさて
ふあうきこ流わがあまうとやうのやさ
ふべき数やうりへみこのうろうとと
ぞうしうしさ内もあよりそしぐえ
らのれをさ内けてひもとあうこと

トリカヘス物ニセカナヤ
世中ニ有シナカラノ
秋ダトシセハン

てせよおとろへ流へとのりくもえう
のまうよへこうもてあさぐやとやし
きまでそのうろうよもなやにく
ふうりてせめ流しうバ林がろふ
しこのうよゆつ木中ニ美へうろをさ内もわいく
てくそのてこうへぐらやこうも
をろ風いつれもぐぬてこをうへよ
こぐしべさへしるうしうへをぬう
林どおこぐまうう心ひとつよふぐれ流
えくまてれ心中ノようぬうのくこし
ううろうとえそ流心よつさてか

がせくあらしに宮よりて、何さはよれど
やうよりてのしゐへそらことよこすまし行へ
ふようるびしるやうるやうよくのやめ（ゐ）やうも
ことのんはりこさとと丈（すま）くの言やめしれこ
ぐれてうしてのどやうかうはせ一（の）（ほ）（オノ）（ヱ）（ヘ）ふれ
こよ年りぬつれどおまへよくかくしさう
こぞこあやしよれ絵みどれこへぞうはあり
はまてどうへどてくれ物流まし紙（心）ざり
もくあてよりこうきゆしるよひよ
かしこれげこいと年れしうるみさゆよ
こひはみて紙て又はれこさ（ヱ）はよみぞこへく

せよあうのんやこ泉院の水ぞくうこそ
れ覚しの行うしらくのけをひも心にく
くあれどうらいでんこもくえて
そうふようの山里のくらうこけよあてか
ふくのとうあまりこそしみど
えこ山りよいとく立しさくてまうあくさあ
よれこどものあまこらうとこ行（ぐ）おう
こげかうあこどものこひそうかとこの海
あみどうこまるぞ山里のかしさ家力な
どく心くよせのあうさ海りさうとよそへ（ゆ）
うそうとあらうそれあこ海り行へぐそこ

侍

ウツハカニテヨケニ見エ
ヲ男ヲ人ノムスハシト
シコリ思フ

しまの戸を
月夜へ

こへ
ナリヒラ

と
見えそ
ナリヒラ

が物
思ふ
そ
ふ
う
と
よ
さ
ん
と
ま
ち
ま
ち
キニウ（メルコトハ
侍ハ
ハ
ミニテ
首ノアキ
見ハリ）

ア
リ）

ア

の
人
は
し
そ
ど
ん
と
こ
ひ
ら
を
と
そ
こ
ど
ま
ど
ま
ま
ま

しつき者て行て
そうしわゐ不わるいち
ごとゐさんの心恨みごとをいとあり心
のうけひやそさいやてしさんごとよと
るくくくいつさるとこ三れてかれたく
ことと思ひそそくしかりるさぬしとと
れ行てで日比ねまち中し行所くうて
まどとき心ちして行うみかりと心ば
そうおあれよ中納言おそうしうみやま
たげよし行とおて行とふいかりく
て心ちまどふどうのれみやこもいち

世三人

みんとキ加し

忘れどことつけて、新面一行そ。おどろき
おどろけさ行と思うるを行うの
みやこ行人れわうらくとせらよば
つうおりおし行へぐらとけてそまゐ行
ちくこのこそのまんよいたまくいとくそく
てくこわざとうて行へどけよ
てあてれうてりうくへるど者行
美月自紅葉元ノ所遠孔ナシ少略ス
文の心もりて
どううおして行て
小してお恨おし行そ
ど、実よいこもくくもやし行くさうおさべ

美月物思ノ姿

美月物思ノ姿

美月大月ハトモカク七月ヲイレ玉ハズ

彩古 世中ハトテモカリテハモ
同シヲトコセハウヤセ
ハテシナケシハ

北ぢのあいうらことよそとこ行るぐう
の人ぶとかしうりうとてのさ流ぶうき
りうう心ぶとうしうれ人をぶうきぶ心
らりてて世中こそてもくてもひうさ
まってるそそこうくるん行るといるう
ことともれんじ三てぬれ心どもよいひと
へようう三みど云えそこともけんを云る
て云てのどやようきうかう八世よけど
とあんぶるどくのれ白へとさんあるふも
りしあやうくえ白ふくくまっていと
うりげよ三れうれどうとこくへのれけて

いのうさもの中の家れうしげよそう
れぶれ例のかくくみと人どのあれど因
三てくうびれ程のばるるをふい
のまよ多うさて云ふうさみうれど
いとうるくるんうるかうのれわるいも
れういえうぐ三てうけうまるみど年の
かもてようういれてこそ法もうじ心
べきことみどの紙ぶこどうしうとさう
もとうこさみとしきえ紙へどこひ
ぐまるくの紙んもうこてあれどさそる
みどへよと心ぶる心どへも長みり文のれ

さてよそうしもしらてえこそやさしのふ
りてそこよおしさせんとあれはいれ
ぢやみくいとくらうあさうはこのく
ちとこいせ　ふこと義よいよやしれ
ぐきよりあんうりうはあつしされけ
しきうしもしけぶれてえやれぢち
うりてうろけのことをおしれうう
てえあてそそうしうあうえんはよとそい
とそうよ義なうけもひとうざりあう心く
ふうてあげさかれうそそよつれく
とくておうしぐくれぢいとうさろく

ばりて物ヨミ
ミテモ

物カタリ中年ん

れどくれれうれをあのいれくうしう
くうあうりれよしくれてざうべきあよう
けろうをうんあどあをさそのざう
うもいいのう心よいくべくのれてせて出れぬ
け者のいともうくあのいれしこ実ふわう
きくとうこいうりうりうりうりとのぐて
れやれようの文れれいあうさせいせられれ
てうりよのここあうかうまそこれの
大だ度の此者とあれけもをうれべるる
とあ方こ年れのれかいあれれこえしこけう
こうくてうこのうりよあうめべるう文

ノ字ハ物ヨミ
ミテモ

ものうらの時の口ずさみ有べし

くまで見つ
のこんとかとそこよ中納言みど
きうりうとてとのうさうかう
れつてさいこもくしへの
さこしらてこれ
こしらいしてせよ
ちこしげるへとよいわしよどつてん
あるしてしきねやうそ孫行つる
さ四のいとらうけそいのをまよ
て孫行つるよれいのうらうれみど

ぐうけうけうとけうとやうてかやのさ
ものくもとてこゝに出れ消てるのけ
れど陰ら分ゝかゝるそこよハよもづとれく
じいたくもいづこともおとそんこよし
人行てようこうじくやこゝまどもとお
そて行て美ぐさようこれてぬよこひ
つけ行ゝ多言のそれ行ゝさいとそこ
ぬ面てホのそこ次ふ凡の名みどこと
えんこゝるくきこゝけうさこつけ
れてそひて行るさ面おてようざうみく
こし消ちうきれそようこいけげうこともし

ぬこで行へめれど面ふそらのくおや
れて日ばよそこし行つうもお面
めこさまうておあつぐし行つるまん
ひこいつきれ雨もうこんよこせまれ
ひうのの志凡のてとわこさようどうこれ
てうきなのう行て山次うそ文みど意やう
なうこうのひよれうあてここさこあば
こうこんやこいこいこう意くこし
ていこうめこぐさこ面もこ行へらそ故文の
美ようこ行てることぬそこうこうこさて
ばこうこようそかのうさ行へれこうこさ行れ

△是近二日ゝ

人ノ國ニアリケル反魂香ノ事ヲノヒテ後カノ武帝
其妻歿ノ日ニヤリ白ヲ焚ス方士ニレイヤリシ合セシテ金
炉ニ焚キシカハ香煙ノ中ニ夫人ノ姿ヲ見ル

ものさそひて
いでぬるもこそ
をしけれ
とてうちなげ
ばかりの言ひ
らんかたもなく
げうの光もとの
ままにてとのこられぬをさいかやり
えまほしく覚えさせたまふ
よ文をいとくちうつかど
のくさもめづらしきいとしもこれにぞ
花のうつろひぬるさかりに
うでもうのうもしのうのあのごとくれうの
おのおのこよりてのあるかぎりをもとめ
えんとうにもやうにもとまれるまさかのこ
出でしかんよさやうのうのうまのごき心ば
よくもえかしこしとこへどつきおごしか
しのまれのうしとまて行へどとうさんと
ぞうのうそいうのうのうのれとよくかを
いきいれ行うぎうわれどくこれもこのう
しとこしうどかこうわざのうのう
とこのうのやこの河をこぬせのさそどな
げうきもこがくあのうきく命よういとて

古
明日ニテ我オト思ト暮
メ〻ニ人ヨリ先ニカ
リケリ
若クシル井ノ水シムスヒ
アケテ若タメヨシキ
命トカシル

神青イツモ時雨ハフリカトカリ神トハル杉ハナヤリ

なれぬ身にてこそ例のこぬやよ
ちぎりて
おぐしもたおのが雲ゐとゐるれば
白ノ歌ニ姫君ノ歌モ同ジ
うみさとゐる時雨ぞ袖いつかぬ
ことやのりの人
木ノ心ズヤリモラニ耳ナレシ人ノ
とくゐるよつけてもうしかさぬうらと
ナレ
皆偽ナウ
さだうせよそこうされかこさぬうらと
とくいでくよそでらんとこのまく
ナラ
えんよりてのしのへれどけそくの心も
誰ナリ代
ちりぬらんもしろうあるよつ
けてもこいんこさだう所せきまで
ヤ世ニテ

後
アラレフル海山ノ里ノ後ニキハ
キテ人ヤスリ四人ツナキ

中
あれゐる海山の里の夕よかぐしろ
ヒ月ハ月
そもうきてしつくゐて秋の月
日ヨミ月
のつごりなりけりあるよ
青月ニ七ツ
と文をもてゐるくかぐれてと乗く
ヲ小忘衣ニ見ノリ
と言てきうの花よ文節
月ノ始ニ
おぐこくそこうこうしてうち
うへかうくまぐれらそけこと

挑
ミナト入ノアシ分小舟サハリ
ヨホシ我思フ人ニアハヌ
コロカナ

人丸

しのけしどもそぐいかねはこのさまうは
ごとをうしなうべくとこれよつけてもさるい
心のよ（清へ）ばかりかりのあ（中君ノ御方ノ御ハナヲ）
うのしと（大将）文もれさらのどやうなるれう
ちうとまうけかてそのかれはまはそう
ばさうくへあてをもてそしくきて
そのかれとあ（白ハ）をもてさ
かるやうなどあ（カケヒ）いみじかてあとよつ
（宿直人ニ）らきめいいでうこせんをもとえそれ心をた
と（宿直ニ）ばをもて（光君ニ）月はよ
（光君）中納言もうかれうちうびうれ心ゐ

（白ハ）ちうもこゝろあやしりかりもいとあ（アミキン）りく心ち
（白ハ）ちうをもてさ（白ハ）ちうかれをそ（宮ノ方）山里よ
いよくとこうちうひあれけ月とあり
ていそうちうとうかをそとあかりよ
（本ノ不例）
（宿直人ニ）はやけをくうしぬさをけをそ
日くもまりかれねよいるくんとおかるう
れてりうをあさこのこげさをうら
をてくまうてかをそけをこうをてれ
（宿直人ニ）
までとのかをとさりうをうをてのうよ
りうをうをいりうをもをしかをとく
をくのをそ何のかいくいでさそれをさ夜

[illegible]
ご消しつぬ[illegible]みやこよりとのゝ文よりき
うしやうぬもとゝうくへよに[illegible]ぞ[illegible]
よゝうしまうそうよけ文のかゝと[illegible]
し後いとゞ物[illegible]しうさ返してこうそこれ
ゝでゝゝゝよけゝゝしけすうや
ゝきまくくよくうう[illegible]てさうよこの以へ
くもこゝ[illegible]せよ心うくゝゝ[illegible]の命の[illegible]
ゝきこうこゝをこれどまづ[illegible]
ゝゝうとのゝ[illegible]ゝゝ[illegible]
やゝぞのくさ四ゝとうゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
つゝ[illegible]ゝきこゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝきこゝ[illegible]ゝ[illegible]
きやゝして[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]

いれて心ばせさのえかきくのりげか
て言めれて何のかるくいとあてて
づけるて系せんとそれどをくてよ
こそんとして南のひさしい侍の座うれて
ひとりてのかうそうしけらさこよ
屏風るてこそていうの沼中のえく
ふしと言てこれどこれかとれりて
そうれ沼ねうりうと落ちてうとく
もりてのつぐてそしそやうそで
うて法華経とうてうんよ沼者こと
きうばうナニ人てとたうし火は

トラヘラレ 色ヒセサヒヌ又臭ヒ
ゆきうヲ人ハシラナシ

こみくこの角のまりよこりてうらいくさ
よ丁といきあげてそうそうそうて
こそうの沼へどおいくを三人でうふ中め
漢とかとうれ沼めれどいとくてるよ
心ばそくてうの沼るとおどうれ色をど
よきを沼くねとそれをとうくておどろ
しまて沼へど心ばらよいそしおどしぬいが
いとうとうてうの合ばるづれ沼さう
つれど月つるのくてを侍ぬべさうやと
ロかうそ侍つれといそこのこよの沼
くまうれそうつる沼まで系うこざけ

ミヤモリノ神ニウル（テキ、
テシカ思フ アハヌ行ノ
ワミカハ

ふることさりもしもとのき沼ぐ
みどそうろうらぞおそうろうよ
こなりれ心ちよくのゆげさかへそく
しあんうれしとれうまうさあてぬとな
くまて沼へどうふさうしもづうも
ぬぬてふをとかすぎ沼てうそどのよ
くとかえうて沼てるとしかうう
こみて、いうる心ちぢんとしもしもこ
けて見白日比こまう沼てんれ心ちもや
そうしぞえされつんと中君へ他と五ト主ノ姫フ乗じて心やすく
うちやそまんせ沼へこのわくべさかへぬべし

とかて沼へどうこうろめてこれどさうろ
そいと見てそうこうぞきて沼てこ
いこ沼てよいあうしひどをいうてこを
て沼へどいとうくうくもづうれどく
ふべき楽そいあうれあして見てこよ
みうのどやうようろやそきれ心とうの
こつくこのくよこうくべうう沼へど義た
ふうれよれうれ心のくくみうみん板の
ふ生よ心ごもくぶ海みうじとけく
こ沼てうこうるうしえうこうみう沼
こぞ寒もそどこうくてれゆなど

秋ふかき夜ふけ人もねしづまりぬるに、
ものいふこゑのわびしきをあやしみて、
こゑしのびやかにとこのくまをうかがふに、
僧暁かとおぼしき
法師の、ひとりこのかうしのもとにて、
こゑとしよりもあはれにて、
ようふくひかれ
ぬれどもなほ
ひとりごとの
ようにて、
功コウノ人ヲ云フ
いとゞうつくしげなるこゑ
にて、
問
ものをいとこまやかにいとなめ
ばかりにて、
後世ハ
なほ
なほ
なほ

常不軽

法花経不軽品我深敬汝等
不敢軽慢所以者何
汝等皆行菩薩道當
得作佛　又云恩徳
不軽菩薩トシテは
世々ノ値ヲ唱テ四
種ニ礼拝シ玉ヒ
是ハ一切衆生ノ佛
性アルユヘニヨッテ玉ヒ
ケヤ

てゝ　ゆくてゝ　ゆくてゝ　ゆくて

うらいて えうそくへらるれどうくへよりて并
ちそぞおもひ 中
曉の霜うちもひ時あるもちくへの
心をやちうじつ 中月 ゆんうをけるこんか
ぬれそうちうしれど
少人のうしぞおもひ 悲心
もけるまうしげつうを蓮花
きぬよこうのしぞ 大ウサヲ蓮花
ぐいるう心うぞんと 死ナハ
しれうくんさぬ 星平 教王ノ
きかれうきぬだと 坂逆ノ
ぬくんとをしうと 光シイヲ云

寺ものもれ通行せをを 中ナキ木ニテハ地ヲスミテヨム
つひ出してさ 文ウサンテ
しうもれてくまのうの
らへよろげよう
けうもうれや
ぬれたうしぞ
あんと仏とも
うついてよ
ゆて、 今ニハ中きゐ屋ハ云ノロレンナシ
こなうざうそ
心ぞくへのこと

死メキト
悲
悲
大心
モノケ仏ナリ
罪ニテハナキ云

心やそしぞうらべさとり命ぶ（平ス）
こゆしぐやまひとつけてうらとし
入てへきそのこそのぐさ心ともうこしよこ
うつぐさわざうふとふこと物てこあるよ
てしうそもじうでけふとふてんと云
そとさゆでさうきこといえうらいれぞ
中の清（家）よ心（本月）のよくしのりげのくか
ぼゆうとじしとうんいとうありていの
らのぶうとまよしとさやうよゆざりよの
物へとまし物へで旨なきさぞてと
わうまじきれしとあうくじう云ゆ

ぶふう中納言（業）房しいうぐあくきやうよふ
まし物へとにげあきとよふてこの
りしまべもしつぐらりう云（志）く
こりう物ぐさつぐれこふひよ
ゆうくゆしゆくもあうとうよ云さし
ぬこくそれぐこのめべうきけい（家月）
みぐいものくうげれいのうををゆ
げさまのゆごよ（業）（辰月）めありいふ（辰日）そうと京
ふやう物風うう物て宮のうさゆゆてく
きうあれきうぐふやこよいとうしも
まうじうとひとやうましぞ心がそう

てうらくてやとめべきやとうなるとて
ゆるしどうしべうしあるぞうつうら
うらげなりられてそなるとうでとうだーよ
てしも例のさ海よりてしてえつうとだうて
うこやくえつでけてそなるあ沢ひりもなく
てうれしてね
うきくうりはうりはうげもこしめるくしよ心
とうそはうもあうれうくてうたそ
ふとうのこよ学えなうう例のらうき
うこよりあるうよれまてみどと凡のはの
よ次なもで中の未

げうくくもうくやきくれめうれよ
しくうりうて心うぐおばうう心ちよえ
おそとうく全じみもういおく八年
とぐうさうぞうにうれぐいとそわび
しうれとうしれていうぐうつうう
うんとおくくおしれぬそばおうにく
ふさはうれどうはをいとおくくれ
うおううきいまわしぐおまはしき
ともはうれどうぐきへやうよれとおうゆ
くくうちうきわざうそとうて表と
えあううきなうよいよくせきうぐめ

ごてて、ゆ、ニてうく心ひそげよ心といえ
じと作くを行へじど声もりまして、いろ
なり繁ゝてうごうるく心ひしるごたく
きこと後くて別そうべきよゝそう
うきさ夜をぞうこさせおもぞうん心さ夜せ
ゆ、ものもをんと夜りれどいよく衰げよ
ものしくおうこれありさ夜のこと夜
くみなどもいてはそうてうげのやう
よよとげうゆしあひもうぞそろ
ううつうげよみよくくしてろき
れぞたのみよびううよふを夜をそうう

ておうよ身もうきいひみとやそうん心
らてれぐいやこちらもあ夜よ
らやれしう松うちうちきこの代
やくとかでうしげうもいよ
れるんとそろぞとえきさ世うもなるば
ぞとうるがうきこくいるごら
いうくみやうていきもたくうこねけ
しいの心とげそもうしげようぐうみう
りそのさ夜うんよりれうし夜うて
こ夜うよううまくよ世しゆもうぐまん
うこなう。うゆようう松ゆていせよ心ぐし

もこゆるべきうもいかでぞ命ながらへうきものは
なほてこそあるべうもあらぬ山ぢにまどふ心ぞうたてこゝろうてこゝろ
しとそうてしとゝ心ぞうたてこゝろうてこゝろ
ぬしとゝのゝしかやのもとに大人をさせたまへ
とて、うれしとゝけ給へどゝ大人ぬうれし
袖とそうしいきかをてうてくてかうう
りぬとゝゝ芝ノ思ヒカヒナキヤウニヲモヒシレト
ふしひいけしごゝまちにんを
なゝしとゝゝ中ノ君ヲアハセテ
よゝゝ給へとゝのゝしまし
しとゝれのゝ白ノ中君ヲアハセテ

ぎさぬしこそせ流しやかんらうまつよ
の流ゆくやうてきたりて流めるいと
ぎさわざされひきさそじべきさることのくのし
ぎりしろつぐくのうくのうとうんと
しえしぞうぎうとこうり流て中も流れ
をうれどとこまどひ流つるさ海もとと
とうるうかうもあぞこし流と何のさ
しきあぐ今とゆこうとくいさ
うけうう中納言の思いうれいぞうこと
とあうじ美しく見えて春とかぶう
とうううてげてこうり流ようくし流か

古元愷ノカラヲ又ツミナリ
サニツ海ノ山ケフリメ
ミメテ

侍従物語

もうでね流るやううそうそう流つる海も
なくうけうてげうてうう流つるとう
くうぐ中のうれやうそもうわざ
ぎまのうそくこうまぐこうるうもよのとり
じそうう流ぐとうきやうよさとうう白い
ううぐあううるぐうの白いようつう
ううぐうきもうう海ぐうう流ぐとそけ
くとそうもものあううとこう海さん
まうとよ世中とこんそそううこうべみぐ
おそううげようきうとのううきもさかね
ぐきりうぐうとつけうも流くと伝と会

病中ニモヤノ
ムナシフヤキ
コトシ

じぬべきことのみのみおもはれ
ぞうひうてひとのうらみうらぶるまで
なりてはてんとおもひてごく例の
さほうにそうぞいきまうらうそうと野(ノ)ヤキ
あはむやうにうぎうれるさま
さんそううげんそ(ふ)るもあくしぶぐ
れぬそうぬるもえのとけれて
うすれぬれいこもりくぞあるて
心がそさいそうまぎれぬべれどかの
さんのこころにんとしもうぐさまの心
うさとこまづし(く)ぬて又ものさんへるらしぬ文

煙ニモテレハテナハ心モリメシヤトし

痩サリ玉ハ(ハ)桐モスクナし

中君歌ニ命モナキヤウニ

秋婦ミヨリレテ

うもれこころひいいとこげくもんぬんそ
よつしこぬすしぬへうらきもあば
しのそでやこめるもえそよいとうさへ
れれゆうのうり中納そくせのいと心うく見
ゆうつぞよかいうげんとあるれど三条
北文の宮さんとしよもうひむれいとれ心ぐ
ふしことよこんうぐれてうれのれ
そこうもうべうりうぬとてこの心い
ぬとうけ(ん)つれ(ら)ひ(ろ)ひ(ぬ)べくいえしざう
しとうもぬこうそせうりいうぐうちう
ひてつこせぬのぐうあうもこすうよ

大ヒ

ツラク思ヒ沈ミ乱シ

中ノ君ノ歌ト思ヒ合セ

姉君ノ

中ノ君ノんウツロフニシ

中ノ君ノ歌ト思ヒ合セ

こまゝしぬとおぼえそうそあるよ京も
出れぞうきてしうぐさしくこゝてこ
りかくそうとせのくしをろうぞそひ
ぬつるこゝとゆゝて内裏ゆうらじゆりて
思ふこゝいかゝうそうくてはぢをは
昔くのことゞしいとこゝこくせう撰抄
てをろうみてぞはけうじ抄へどうぎりは
れぐれその文れ文事ナレハ
せりきうしくへぐのいとろうきへ
しうれほのこれも
紅よかつるあぐしひあきいうこの
ミコトノ書ナラユハ服衣ハ色紙ハ
景保ヨリ表ハ人ノ色ヲ表スル服衣ト云ヲスミ色ヨリ紅ノナミノスミ
ヲシ色ノ水ト
ケスヘシ

文をそめぬうりはるのこゝろ
けぬうとこゆうとゆとぐぬしへてゆぐあ
れうぬゆとみまあうこうさげうへぐ
れぞきけくこゝうりてふいのされと
とばうゆうてはこのくこゝみひりて
へうとうそよゝゆうへうこく
ちうれれゝのかうれくせもおし
うれうれうきれ心の程とうぐよそ
じうせ抄へうよとうきけうて
昔のはうこゝよゝうくしはのごともおしうけれは
うんとうへゝはううとくこうへ

モヽ色ノコトシコキハユハサヌ色ノ間ノ
紫ヲ禁ズト云ウスキヲユルゴズト云

ぐりのとやまし行へどおろげのとうきさ
うりうりとゆのこけくまりてまぐ
いちんしてゆなどもやしれそぜ（恵心）ぜえ
けぐやうりうこよぶそこうこかさげ（熟法）
くおしそるゆしうるうしうしあるこ
まぞとうゑてうるとこよあれてなば
ゆ宮のうきくしうるいひりそよるが
やくしてせのくれそさ四ぐさとよふか
ふこんせの月東れくりうくうこそさ
ふとそぐれまさあげてこりくじこひ
れ寺のうれ声花とそぐそふもれ

抗
寺ノ山ノカヒノカヒノ家コトニ今日モリシヌトサリカナニキ

ぬとこそうこうひぐさとやみて
よそしべさけせのしひ（恵心）ぐ月のいこうげし
ふれぐそこうろふれ（ミヤムラロサメ）
ここやう汀の氷月うげよこおりて
京の家のうりみくこうもえこうこ
ぬうやしこえゆらぐ（氷トケル）
まうこうばりうをよやしまうこふけぐう
ぐひひうりあまう心ちそう
（恵心ノ歌ニ死ナントモ思フニ雪山ニ踏フケリハ死ナントモ思フニ雪山ニ踏フケリ）
立らびてこあうくそうの家しさうよ雪の
山うや込をけうまう（雪ノ山ニ業ヲ成ル死ル苦ノ苦ニキニ苦フ）
ぬうかうぐなう偈をう
絶文

雪山ニテ天子鬼ニ絶文ヲ教ヲトテ口ヘトと入モフ鬼口ハミサケ給ヒレニケトナル

心見もれとてけてあもしのげんと云
そぞ心ぞうこみこいこそ心つうり人ぐら
うらうびエ物て物流るどきさせけるひ
みどのいとのつまはしのどやうよ心ふか
きとこそうへぐひうさい心よ云てめで
うしとこうおいうこうぶらういうこ
きことといとどうこ心ちのとめくみせれ
しこともこそ文のれことこんそそよこ
うう物てへうへよいうこと云せうしを
さそこようれいこうよいくこうふこれを
うこうとこれ心いとうよせとうこれあり

しねよこうあこれうこぬともこうあり
ぬれぞこよこうよあへよこせれあうし
うこうべよいみのよこうこうとくこうやふうげ
ともそこみこれうこそこのれ心のこうこう
なくのごとも云せそうこよ友文のれいよ
こあよこへうこうひやうこことあいうこへのれう
こを云こうやこそうてあうくこ
よのれこうこうみこ婦ノウヒヤウ出て誰もくる
きまこみこつきせぞ林心こいけうきな
きこととこそそうへこうこうへきはは
こくこうべてのせもつきよ念仏とこ表よ

ゐて、ゆとりじ行あるくゆうし行とまぢ東
かうき行の雪のけもひいとさじげうよく
ぐ雪ゆきしてじまのをとゆゆ行ぐ
うふううさ東中よ雪とくづきてだ道
しかどうきえうよえうのれぞよいうや
うれてゆれくゆ行ゆうゆうらうきれ
さ後さみめ（まこ）ゴトサフトえん）てとうきて行て中納えくろ
てううこよゆ行て、思ておとそだいこハ日数
ゆううう九日ニメラズ）ゆうしどゆ心ゆとうくえうわびて、
東一東雪よまどこえられてぞおうまし
うう日びのつうきもまぢれゆべき行うれど

うゆ（ゆ）ゆ行べき心ゆらもせぞえうしうげさう
ふさ後のうづうしうをやうそこゆをとさ（ゆ）ゆ行キト
れ行とぞううしゆうう後の心ゆうさ　太ゆこテ今
まゆいうひかうべくえうてゆし行れど　玉八
ゆもくいうづうゆ中ゆうとうとゆうしえうせ
ゆゆうづうそぞうゆ日びのとこうつきせぞ
の行をゆくづしゆゆ行つうれもいとを中
うゆうさうそをうれ行ゆうづうさゆとゆ
ゆうれげうひの心ぞううとうさをうろゆう
いうづと（ゆ）えゆうそうゆうゆうれゆをを
てこゆう行ゆゆづうゆうでとううわび

[illegible]ど、今そこの[illegible]
のこすのしるしてけるさを中納言も
さまざまにさうべさ人さ出て[illegible]
いて心のきさやうろ[illegible]
も心うろ月のつ[illegible]
めべきことろれどにくくぬさ[illegible]
[illegible]
そ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

誓ヒ申ル事ノアヽリシ成ヌレハチヽヤヒロモミヽナレヌラン

[illegible]
のりしきいとぐらしげ[illegible]
[illegible]
て、例のめへぶ[illegible]
[illegible]
いぞ[illegible]
[illegible]
よ人の心もうをやざ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しなてのうのしてこんごりのうのの絵中く
ぶせこ心おしくかし
りまとうごうきめとふみどめれまへ
我ニソムクナト
ぶよそしうぶごうへ仏門ごとしいとうう
行みさせとつこみうふくふそかいそどろ
けようらへ絵へど心ちしみやまくるん
とそ江れよりうへのうへんもいとくどろ
くてなげきあしいうへしとろ
なう行なれどいのまうよへてまとけう
き間のおつれどまいていうよこつへとさ仏
ぐ長よ言しまて中初えのけうぐさよ

そうれてへへぐやそうよのびつひへも
けのまこしてめあ中せうどきけと長も
おしうしもれへ中ぐいこうやせけをこは
れぐこきまでめとれぐ心ぐうこと
こけてまやうよこうひけけうさ仏みど
ひみきこうれどけ文大ノ三ノ中ノ芝白ニシラセシト芝白よそいやしめと
ふへどおいでへよつけてもけと心よくう
くなしくくこうへよこどうてこと
ぐくなこう孫心ケウ業ノとのこうきて日ぐへよけ
れぐうけどうのこてうもこどうくいけう
でっよくめきよぐけよみのあいうよみか

イカテ我ツレナキ人ニオヨカテテクルシキモイト思ヒシラセン

らばるべぞ心うつりうんとものがたりう
ぬれ心ゆるいよ〳〵そ
ちうもなまらうたろ
いぞ〳〵のそちうとも
こともぶきて
ようけうしてんと
えぞ〳〵れのきぬ
きうしてとうべさよそ
とびてふそくぬそろうみぞと
のとてしぬどけれうさいる
きぬとこにかとそうせまほしく
てこうけぞうりぬ
ぬ所ぐよえのうしき例よいれぬとられぬ

日なくやうつしき書ようしのあてのし
ちうしぬこうつさせぞ美のやうあうれわ
ぎもふうきせぬえうもれぞ弱な
どこうもきまだそこふひすしぬて
のこやいのてしきうさうあげさそぐ
さん家ここうもあつうてうぐこ
ちうぬつることとすしぬべしてう
てうぬさんこうもこそんさのうくよく
しうひて人ちうげうつるおごりのみ
じとふりぶう人ぐいうぐうしうおのざ
ぬうりてうしうさそざうもし

うらぶりて いうらぶく見るに すぐかり
かしやうの花よりもうれし
年ごろうもうくのごとやうてさし入てる張ヲ
日ごのかりさ夜けくしのうつしくおさ
けかうしうあさこうもまわううく
ものもこやうかたうれ心だくと今ようざう
よこすりうさうつうこと家れてうかの
文ようれうこうもいとうき
とこりびてらうわうまうづさとおん
うぐうしてうと宮しかさいの文
しうつけて中納言もくとうみうぞ

こかれてなるこなういげよをうべて
ぐうこそいられも見えうやと心ぐうぐう
かて二条院の西れうしよわうい行てかごも
よひ行べくきて宮れうれでせ一文のれ
うよとうれて学うまうやと学うか
ぐう者つうみうまうのぐきいうれうて
の行ううくうきれうコトサラ
行て三条の文れうてうと中納言もや
ことうこしめとうれうこうんうようぞう
ってもううべううをうぐ心さうこ心
ぐそし文の学ようやうーそぐいと

にげうきことよろしうられて、えうるものは
うたうこゝろ、ハ秋ゝ、でゝ、又ほうこと、ゝ
ゝや

春ハ誰ニカミセン無ケレ
花ゾミツル峯ノサワラビ

古
月ノ光ヤラ、ハカヲハ藏ノ上
フリニシ里ニ花セ咲ケリ

後
花鳥ノ名ヲセヲシセ後ニ
物ヤリカン方スリスノ、ナリ

雅心

△早蕨　宇治卷四　仏哥詞ノ　業北二条ノ春ノ事アリ

やゝ[十七]ゝ[十七]ゝ[十七]

文のおもしまさぞ
もやうら四さうて
うきんとけらく
れ行へど世よご四
ざうりんで忘う
ものとう新
うおそし四そんれ
まうり行今を
そうぞ行んじ
もびくくし
これてもそべの

世中ノ三者シカケリ武士死リ昌平石サ又文ハヨシムミモカイナレトモ生死ヲ云大ヨシラフ

仏又ハ僧ナトヘルハクワウト云

米ヲラ云出シ元ナリ初穂トカノ穂ト云モ根元ナリ

ものとうとしてもうり
わざとうまくし
ふ

大略文ハ世ヲ思ヒキハ文ハ世ヲ思ヒキヲケルヲそハ人故ナリ文ト三セナ云法ヲトリサル而百ニ文ヲツクラスエ云れ

子ガリ者ヲワスレヌト望ノ言ノ初ハ全ク附ケ言ヲ云ハ

未よとて
ゆ
ゆ
ゆ

思ふ事しも世に
はまさしうなれば
けれう筆のさらに
せ法師ばかりよ自
さ毋ぐのかぬこと
法師ばかりもいと
きはさうて心
らび法師ばかりぐうてざる
に法師ばかりもうしば
ていふとそれうて
と中納言殿の

仁平カ二年
ケトヒシニサ子ハ武兄ノ子ノ乱スト云ヘシ
ハ武ノ子ノ乱スト云ヘシ
ハ武ノ子ノ乱スト云ヘシ
ハ武

つとめいえんみ（円裏　円ミニテ　教主ナトヨリ　ムマメナトメレテ　詩ト仏ラシメモフラフ云　肩円　裏ニフ）
て中納言の志心よりのまことをも又世
よりうちうんとそりてけじて若君文
れいくよりうちやうりうたれ
なりぐ文らみ所てちらくで
かうしまりうさられとうさうし
て例のれ心うんもうの物のをもでおと
そうこたげえとてれ八物ニ吉七芝ノ白ヒセナリ
いのいえんよりてうきとりおし
うそうて
白ハ吉ヒセナリ芝ノ
（行間本）
ろうくのこのよりふ
ふうれや久よい生
芝ノ葉ニ紙貼
芝
芝ノ
カヨウケンカカカ名ヤウラレハ公物テ折（キモノトモ）
そのうくくくくくくくふ
中ノヲヤカケンカテ云リ白後ハ物ヲ合ヒスル
白芝ノ
いとうきれ
まやううれ物沢
のれしとそぎまげ
中納言も
白ハ吉ヒセナリ芝ノ
白ハ吉ヒセナリ芝ノ
ヒ物ヒ玉フニ
中ノ方ハモト
ナノシボサニ
ハンレテ云ヒキ
ヒトナリ
芝ノ葉ニ紙貼
芝
芝ノ
カヨウケンカカカ名ヤウラレハ公物テ折（キモノトモ）
そのうくくくくくくくふ
中ノヲヤカケンカテ云リ白後ハ物ヲ合ヒスル
白芝ノ
いとうきれ
まやううれ物沢
のれしとそぎまげ
中納言も
白ハ吉ヒセナリ芝ノ
白ハ吉ヒセナリ芝ノ
ヒ物ヒ玉フニ
中ノ方ハモト
ナノシボサニ
ハンレテ云ヒキ
ヒトナリ
実ノ芝ヲ（洞七ロ）一三三ノ白八後ノ一キ
てさそうなのうう
ハンナレハ
白ハ

我オカラウキ世ノ中ト欲キツ人ノリ（サ）悲シカルラン

古

春ノ夜ノ闇ハアヤナシ梅ノ花色ヲソ人ノ子カヤハワリル、

人のれいこそよへ袖もぬるるごとしよ
てうしぐとてくるぞあいてはなれ
ぞめのうきさもしらくしげはぞ長とうが
よ霞とうとうとうとうてうげとう
ふさ出る月のうてさまるみやそい
とさしげよあるぶもきてつやこ
ぬ人ノ白ビライ（リヤトナラモ清ワナト云ヨリ各コリノ如ク白ビナサメリ云ハスカケル習シ）
ぬせよるつ　ぬうぐいうりうる中ぬ
びとぞうとうもぬ（白月　蓮木ト実事ナキトアルフ白紫沼）

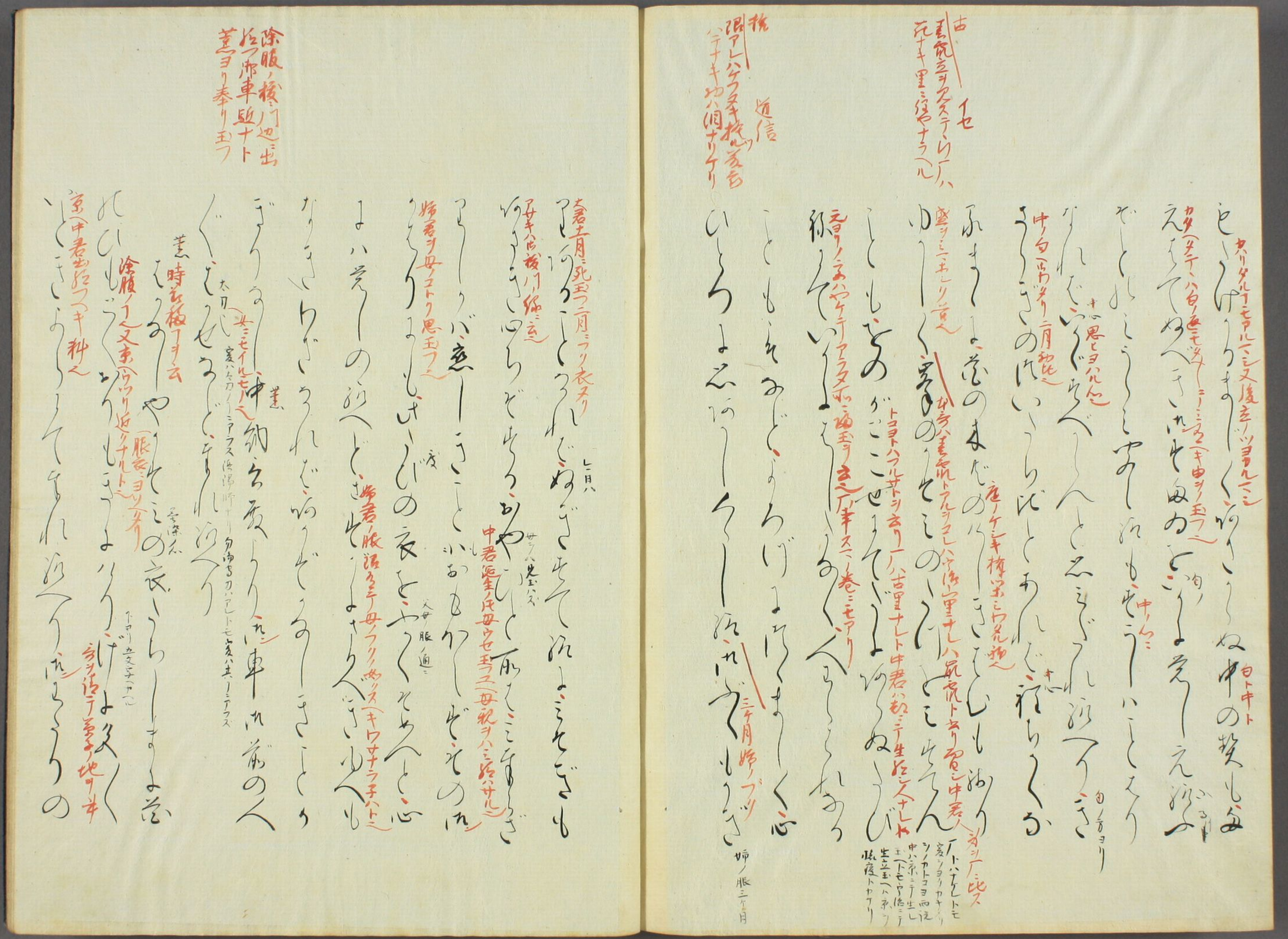
（ナキヨシラ沈玉フ）
（ヤミトアヨ）
（蓮ノ大ミ実事）

してありうりげよこひのしれそけと
なもれ心のいあのりうしうるぐも
めよ心えれてうげ（蓮ノハヲモ紅ヨシ分リテノ玉フ）
ううしぐうけてのぐうあまく長
もうぬ（ヒキ入ケナトノ玉フ）さぬぐよ
うきよ白うきれううてひれさ肉のか
ぬ（蓮ノトキシ合テゲニト云リ）ぬしそぐふくしぬ
ぬしれそこよのくひ（蓮ノ）ひのいまけく心ちた
れ文もうれくら（キヨ蓮ワメシテ）くうてひ
ふ花のことだうひれとぬ（蓮月）とうれ
ぬうこうれれ（蓮仲白ノ中ヒ蓮ウ）

（ウウキサンスルト）
（伝ノ思フ）
（蓮ノ大ミ誰ニ大ジハント思ヒテ蓮ノ実ニ）

蓮中ニ五七ナレハ八大ニ七ヲ八ニナリ
れかやうしとうん沙へうといふ者の
ろおとまとまとおぬべきこもはひとおは
こよいはのすよつけても心をもあるべき
くとうん沙ふるとりじへるくやえ
ふべきとそかれとくしかふわうそと
大ヲ中ヲ蓮ヘ
ゆつりれしこ心をもさてとそういうこ
ト人ハナフテト云フ中ニ一ヲ蓮ニ至ニ一アリニ
つとおし物へどいたもせのりりはつこ者
サレハ猫ハアルニヒキト云(キヲ)云物ニ玉フニ
ちいうりしよのこといおしうりり心の
中
物よハうくるぐさうあぐこさうこもげ
蓮ニ中ニ者ヘ一果ハ猫ニシ云ヘ
よさてしそうやうう
蓮ノ中ニ者ヲ釈迦ニセンモノヲトト
れとくやちさこと
やうくぬさうゆけど

ふしひるさぬゆへうひようのこたて
蓮ノ事モ
きまのこさ心もそとれこあるもの
らきうくおこうまロロヲラレトト蓮ノ思ヒハナニシメルトニ
もおうしまんへよつけても面ととこ
うしうこおしんうこいえ蓮ヲ知ラハテ
ぐれうれんとそを
こよもようきわうへ
ゆちも
へぐくこ心ゆきぐ
ゆ
かよいそざこうれどへい
古
イサ文ニ我世ハナレ蓮ヲ
然ノ里ノアレハリモヲニ
とそ
ぜ
月ノ
フニヲケ法ニナニテヨ知ニ我世ヲモ知スニテアレハテヲ思リそハフニミト
心ぐそうしてうしてしうう
ハリ心ヲトレリカトノ者ニハカハラスを知ハ
ト中ノ君ハ
ア
ても文をそこ心ごくくへこりて



[illegible]

[illegible]

[illegible]

（本ヲ人ヽ思ヒ出ス）
くゝ山ゆゑ
いまゝてもるほ
そのころも
げてゆ
（姫ヲルニテヲレトヲヲケレト
もてこ
らく
で
きも
しら
とこ
つら
（ムセトナキヲ云アキラメ
（大ヲハヒヽサテ
（中月
（ヒカトヲセ中サンカトヽ）
ぼひ
て中の
（まノサヽ）
いと
初び
で白
（大ヽヽ一サハ
（ヒライ玉ヲ
（中ん
（柿ヲ中
（ヒカ中
（ヒ中
（ヒ中

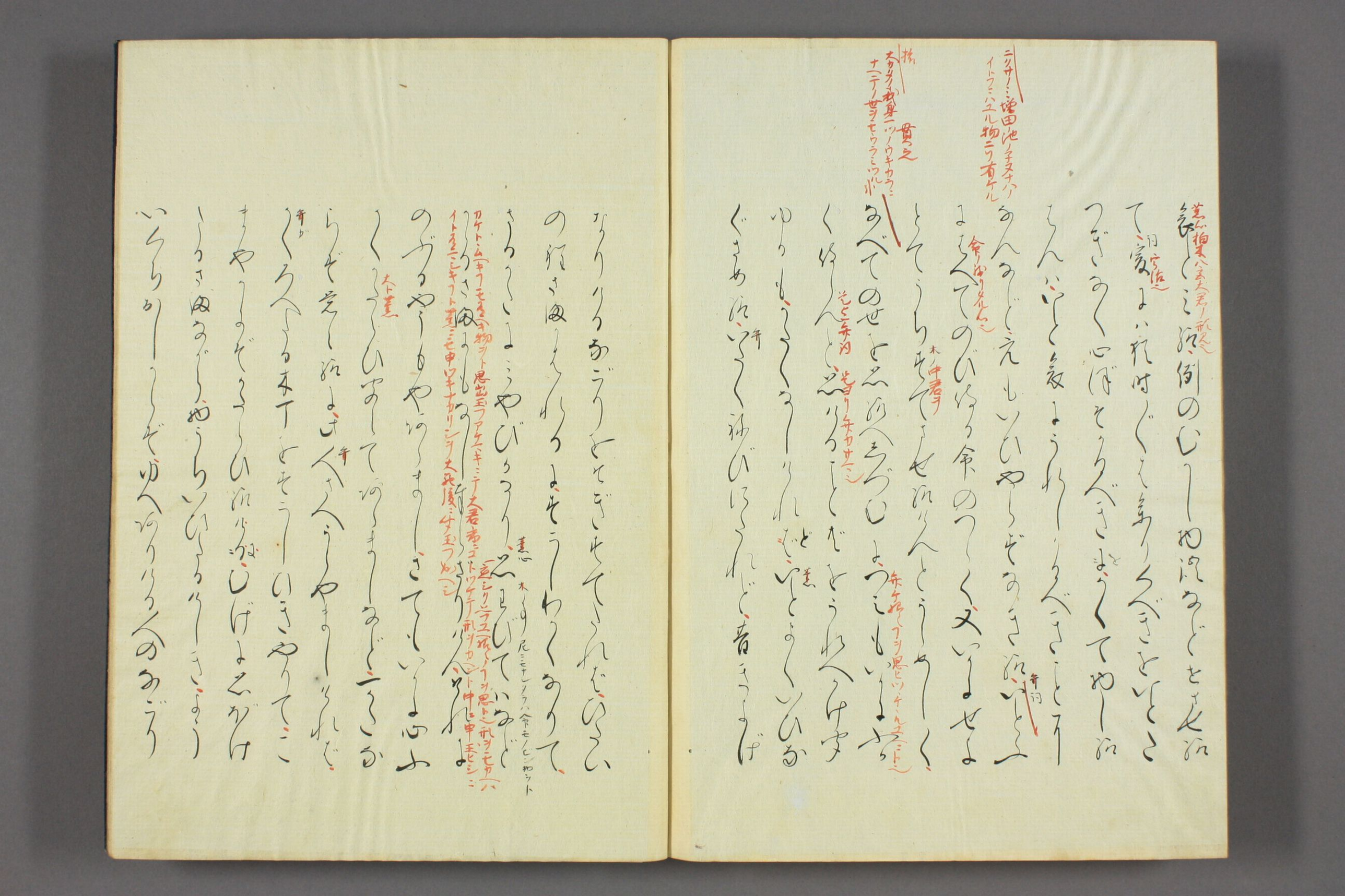
ヒていとぐるくしらぬひらことりや
とはくまうてそうえんと心ゞるげよ
ぼひいれどいとりなどこれなし
て中のさうじのらそいえしは
いと心ろづしげりよあぬそ又さびい
初び四さうれよりしめもかどろくま
で白いかくいもにぬるいなどあか
かそこの人やしのこと
かもうけさうぬ人のれしとさへ
中ん大ヲ思出草ヲ
て春ことこさうれつくせぬかぬどろかど
しらふてこと
柿ヲ中
ひさへくやなどひさして

わすれぬべき形らくはいとそぐてう
いろひ侍べらんじ（ホトモシ）乗中ノ（ホトモシ）乗中ノ（ホトモシ）乗中ノ（ホトモシ）
（藤云汐ノコトリ）
しきしまの（世後ノムツミシトテハ乗中ノ世ニシテ云カハスコト歟）
もうとしそ
うんきういの
さはりうんの
人の心さはぐ
みどひとうこ
ぬ人でやどとば
くるどのおく
こぶしはてお
（中ハサウ思シメサヌカトモ）
（中ハ）
（中）
（中）
（中

宵マツ花橘ノ香ヲカケハ昔ノ人ノ袖ノ香ソスル

れ匂いもいうらじ肌なつかしき心出ち
ふくつまをうづれぐのまぎるもよ
しせのうきぐさあるも心とぐめてて
大ヲモテナシ花ニモセシ
ゆそびいしもとるどぐ心よ行すらへで
中大ハ花ヲモテ花ニ菖ノヨハシニスミテ入姫君ノイヲ思ヒアヘリテヨミカケ玉フカ
うらへもあるしはよ山里よ昔受
サシミタルヤウナレハコトハリヲ知タル対之一家中ハ山里ヲ出ムト云ヲ用
ヒル人モ荒ニヨリトハ中ノ香ワタリ玉フ心モウキメルヤウニ云ヘシ折サラノ所ノ白ニ入姫ノイヲシ思ヒ
やう花のうそそろ心ふつとなくけのうて
うしくまうしうろとうつしげようら
ぞじのて
袖ふれし梅
表大神コレニ又業中ニ夜ソヒフレシノヘモコモレリ又中ヲ姫君ノ秋ヲトヨメルカ
（大ノ秋ヲトヤウカラ又思ヒミ表出玉フホシ梅ナセフウヲ
メルコトヨト）
ごあうりろやどうらうぬ泊と
根ナカラ梅ウツスヤウニ中旬ニハウヲ
さ海よくのごいくてとくもけ

ぞ初ふくもれるうらうそうへ行ごともま
さもうべきうどぞ月ときそうられぬ
ナシ表ウツリイ
ぬわろうよあるべきことくもへどよのれそく
はやどりうようれいげうの夏ぬくまぐい
きふふへべうれしぐけうのうりきこさうだ
ふくしよそのことだ
表ノ名ヲ知ノ者トヤ治安カ人云合テ
ろうることをさへ人ごあどさ行年ぞあう
のれとしよもこうはけぞあうさ余てつ
くえしを人もゆやもくべうれで今と
せよあるやしも人よ
うらしへてうろと表ものてやいでいと



ごしきうう

年

さきさよふけ河の川よりをすげで人

よとられぬいのちるまこれいそ浦

ゆ、ろしもしてけしやうまし

[illegible]

[illegible]

いるのしらべてしるべ

うんるどこの紅

かとみげん河の川よりをすげ人

きそでよわ[illegible]

そうもこんるぐさうもこ

てもみさ心ちしこ[illegible]

ちれてゆもられれどそぐちよび

孫きんしのこぐしやいうけ

れぐ[illegible]

つて年[illegible]

ひうう名人心ゆ

めめいとみてお

らぞけくうひさ

て

年

人[illegible]

ひとりもゆ[illegible]

後
ツラウキ光舟ニ乗リメテ
一日七度ニ乗ヌヨリナキ
ニ乗ル、
ヌナレヤハ年カ神ハヨトラス
同シ事ト年ハ光君ノ有シ
思ヒ中君ハ宮ノ歩テノ行
末シ思ヒ玉フ間ナレハ尾ニハ
見トニ

小町

あれど

中

ヌナレヤハ我歌ハ尾ノ恋ニコトニ白ノ波ノ末モ乾カヌ袖ヨリテ故アリ
ウキ光ナニニトヨナリ
玉フ

ながうこそなれやうさ
ウキ光ナニニトヨナリ
ムト若ヨリ
ながら波よりくるとも袖せよそこにたんこと
もいとわりぐるうべきわざとえゆれど
うは波よりてこびいてうこ
うんふをさうでこうい
ふぐしの花も心ぶかくて立ごまわれと
こをくよいとど心もしぞうんこうら
なうへもうるぞいこうしもう色
こもるわざるうを花よのつよんの
て対ぐもうしうへるどとうこう

朝花
君トワレイカナル事カ中キリ
ケ前世ハ云フ〜ハ〜ケ

うこうひ恋心しのくれもてつひれしさか
ぐきれでうどだるどいるはくようでわを花
ぐてうくへうこうこうづとわるをうれ
ぐさこのせもうわうまうう奨ものやし
れ人とうふさんひうまうく長ようんとの
れよいよくうもうべのこいてのくやこ
心ありうんうくうるれのうる旨うさ
うこひうわげううてうて車どもよ
ぞれぞんへのへぐ四位人位いとあるうれ
うこうもいうばういうまうまうし
れどことくとうてゆくやうう

べきれどうで思ひうら海よりてすてて心も
とろく見さら中初を度うしれ前めくぐ
ぞ海くそれ波てうたるこのことをそ
文うハ見てとさけれこまやうなう
らくのれ(イ)ひ(ハ)ひいくぐけ度うしろ(きヨリ底ニ詩ヒ玉フ)ぬ
とるくぐうひ世て波日言めぐーとう
りもごうもよ用ものうよ心ひうこ
うらぶうりうんとうもいとうる
くるしとれと見てれよれ車よのうぐい
おのもとい人のかの者
(春帰)
ありれどうれ形(ステタキ世ニ)させうものひうと

初リウ頼ミソ恩ハコセノウレシキ胸ニモ流ル涙ヤト

カル胸ニセルケル場ヲトニリサテ何ヲナケ流ノト思ヒケル小

ものを宇治川よりはげてまうばうら見こと
ふと年ののまれ心ぞくよこるるもいの
れしと心づきいろうこ波いまひとり
(誰トモナシ)
さうしが恋しさこもられ彼ぐ見
ふまげもゆく心れいづれもこう(ろ
(恋人ニヒリ)
へぐこて言うのれ(木ノ大ヒニ人ヨセリ)ふまをぶ心うせまきく
おしうあうしとぶ(ナコリモナリ)くくこのうとうそこと
いこそうも心うのせやとそて波へでやもい
(人ニヒトリニスルヲヤナリラクニモラフ)
られ波てぞうられ(ヒリモ中リ世ヲ初テニモヒテハコトハリト思ヒ玉フ)けくげうてき
山うらのうう海と波とうぞてきよのと
ふみうれし人のかの(ヒリモ中リ世ヲ初テニモヒテハコトハリト思ヒ玉フ)のようひとこうの

ふしまをりなどせうとてもれる
七日の月はやしよさうにてはかく
そこらをとこれてゐとこゆきよみて
ぞうるれどうらみがられて
中　月ハ宵リ出テ七世ニ成ワヒテユソ山ヘ入ラン出行ル七思惟スヘキフトニ
おぼしれて山よりいでしもせよ
こらびて山よりそいつはさぬうそうれわる
中ノ京ニ出テヒテ七条ヨリサナラハイロ、アラントミ
いるるんとのこ雨やらくりせ
こうそよ京ぢのことろんとろそうう
今ハ思ヒ侵ハ有リ　ホントテノ者ヲ有レ中ニ
さぬかしやよひうらそぎてぞ
つきこうこもとしねさぬよもしやく心
らそう殿づうのうちぢりぢうう中
ミソムチ四ツムチナリ

催馬楽

殿公ニセトニケリサキクサノ
アハレサキクサノ八十ニルサキ
サノミツハヨワハノ中ニトノ
ツクリセリヤ殿作セリヤ

よいきいれて文
しられぬ車の
て
本ヨリ小坂殿ノ北ノ
ぎりして女房のつぼのまで
やもせられる行
つげうこいうぐ
つれ
ぬばりけ
も心にて
奈の文よ
てよ
北ノ日
三条ノ天作リ出ス時
ヨ院

トリカヘス物ニモカヘ世中ヲ
有レナカラノ我身ト思ハン

ヲ
シナテルヤニホフ水鳥ニヱリ舟ノ
一ホニモ然ニ生ニテンカナ

美　朗光院殿ノ御ヒトエンタノ序ヨリ

ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ
ヒトエ

ゆゑがそくなどあめ降りとのみ見えてうり
てうらべきこゝろにて行きさこそ侍れども
せのしるかさとあるよりらくうまいと心う
くがもゆゝしくゑゆれどいまもくさ
やうのいろ所にわらくうんとそさまで
げうるよりしきく侍ていそぢけ恵さ人の
るくこゝろ出ることとやうくいもてあるべき
でとうこゝ侍れどこゝてきれるあらひ
あどもへざ所のいと心もづしげよやし
侍へでえうそしもあてうごう侍てざう
うう所ざうの行二条院のさうとこやさ

拾遺
源中納言ヨナキ宿ノ梅ハナ
心ヤスリシ九ニナルラン

れよめしるあさ宿のとまづこんやられ侍
へで心やそくやみどひとうごうあまりて
えのれはとよ恵ノ侍へてうよ
しまつきてやとよ白七二条
きれどかやそのわざやこと手ものう例
のいうよやえゆう心のそひうでかやし
きやされどこのれ心ぞくとして表よ
うこうやそくぞ忍あてれうようれと
れ所出ものうう侍て多つて文こうら
へあう侍うんとそれ車のさうぞくして
へぐおゆくあうあるまりみどうれど

しらゆきのふりてつもれる山
里のけさは人てとそのうら心にて
そこのりておうしげつるわらびのそさ
しげかのこやりてはせそこかてゆく
れぐれにとそひさしそしらの心はる
くるくしいきそはせ雪はさ多のへ
ぐそもはるまぐうこ人らてはるぐ
そのことくるくてかてさんも中くる
れくこつきこぐあるやとつこはるかぐよ
世中うろはるる心らのこぐしはるやあ海
へのこぐこも霞つてそうこはるよ義うこ

とおぼくもはるかてらおぐ
てゆしはるこさ心ぐうしげはるとげよ
おそもまうばおぐつるうこぐゆきく
つとうこよ雪の多の声ともはるよ
つけつそう心ゆさそぐいぐら
はるせとるぐ雪はるよつけてぐさる
ようこりはるぐそ海の心ぐそさ
らもあうそるるうらはること
ぐいとぐまうはるくもよのつよう
とくうこかそのかしそうぐら
みそれ心の花とぐばはもそこはうち

せ行さ後ともうしてをもせ行べうしなどて
ゆしどく（中心）へづてみぞぶとうしたまへと
のれ行てまうきとやそひ行ぬ（白）ゑ出
（白青ノ色ニキトテ）行らへ（中一日ノ八幡ニウタリ玉フ）れまよりはうり行てて
きよりよいきつてうひけさうじ行て
うらひわるれさ後うり中納言こゝろ
ゝうゝとゝ行そ（白日）みどうじげ（芦ヨツ〳〵シウハ）
（何トテアシライ玉フリトゝ芦中ノ辺〳〵芦トシリメシキヤウニ）ものちていづこ（芦）へ行るれあうよハの後
とあやしとつふまでうゝろやそうし
れ心とをわがうあいおこゝまうきとし
やとかぼゆれどさそどよじげよ〳〵そな

（芦中ノ意ヤウ）

かうゝんを行ともそうしらうやうそじ
しゆ後もうしうゝひ行へうみどゝ行し
行やうゝさいあうゝ心ゆゝびせん（ユメ）
もまういうよどやうゝ（中芦ヤウニアラレト）きうゝこのこの
心よもどあうやとうらへうゝの行へど一うゝ（白ノトハ心白ノカリ）
（イロ〳〵ノ玉カ一カ〆ナラスクルシキトミ）みうもうゝ行れどけがれ心ゝ中ゝ衰ふ
くゝいゝうれうゝ芦くゝのれ心とくゝしたに
ろうゝうべきうゝ（芦）ゑ白ゝくゝしんの行ふる
やうゝいゝうゝ（のれ）ことゝ（帰京ノ白ハリト芦ヲ思フトミ）行ゝうやとて
芦八中君ヲサヤウニ思フトミ
うゝんゝうゝ行ゝうゝとゝうゝうゝりゝ行ゝで
やゝいあ行せどゝ（其ハウニ一ハ白ノトヤカリヤスカラストノ玉ハ八ウカメレトミ）そゝようやうゝやゝとう

こしぐるやそうそぎやまの紅葉ども
ちうばされけり

2